

ISSN 1349-1989

**鹿児島大学
学術情報基盤センター
年報 No.9**

*Computing & Communications Center
Kagoshima University*

**No.09
Annual Report
2013**

目 次

巻頭言

ごあいさつ	学術情報基盤センター長 森 邦彦	1
-------	------------------	---

センターサービス紹介

ハウジング・ホスティングサービスの紹介	情報システム開発運用管理室	2
パブリックVPSサービスの提供について	情報システム開発運用管理室	6
パブリッククラウドサービスの提供について	情報システム開発運用管理室	9
セキュリティ対策（ウイルス対策ソフト）の紹介	情報セキュリティ対策支援室	12

ISMS特集

情報セキュリティマネジメントシステムの認定	学術情報基盤センター ISMS事務局	
ISMSの概要	山之上 卓	16

センター研究論文

ブロードバンド普及率の地域差に関する考察	学術情報基盤センター 升屋 正人	18
IT相談室報告	利用者支援室	22
ストリーミングサーバアクセス件数	情報システム開発運用管理室	23
窓口来訪者数	利用者支援室	24
マルチメディアスタジオでのTV会議システム利用実績	利用者支援室	25
教室計算機システムPC利用件数	計算機システム運用管理室	26
2013年度 共通教育棟端末室利用状況	学術情報基盤センター端末室	27
講習会等開催実績		29
学術情報基盤センター行事表		31
教職員名簿		33
研究業績一覧		34
その他の業績一覧		47

巻 頭 言



ご あ い さ つ

学術情報基盤センター長
森 邦彦

学術情報基盤センターはそれまでの総合情報処理センターを改組して2003年4月に設置されました。総合情報処理センターでは専任教員（助教授）が1名でしたが、新しく設置された学術情報基盤センターでは教授3名、助教授2名、助手1名の6名体制となりました。また研究部門としてメディア教育、学術情報資源、情報通信基盤の三つの研究部門を配し、学内で増大するマルチメディア・教育研究支援システム・通信インフラ関連の需要に応えるべく体制を整えてまいりました。2009年には学内サービスをより直接的に効率よく展開するために情報システム開発室、計算機システム運用管理室、ネットワーク運用管理室、情報セキュリティ対策支援室、IT相談室の計5業務室を設置しました。これらの研究部門、業務室はその後の情勢の変化により若干体制を変更しておりますが、基本的な組織体制として現在まで続いております。この間で特筆すべきこととしては業務室の中にも情報セキュリティ対策支援室を設けたようにセキュリティ体制の整備があげられます。ネットワークやコンピュータの急速な普及によりこれらの脆弱性をつく攻撃・ハッキングが急速に増えました。初期の頃は自らの技術を誇示するような愉快犯が圧倒的でしたが、現在はコンピュータやネットワークの乗っ取りを目的としているため、その存在を隠すようなウイルスやマルウェアが増大しています。ネットワーク社会は、もはや善意のユーザーの集合ではなくなりました。

大学の中での情報系センターの役割は時代と共に変化してきており、第1世代は計算機の適切な導入と運用であり、第2世代ではネットワークの適切な導入と運用でした。そしてこれからの第3世代ではセキュリティ管理が重要な役割の一つに

なるでしょう。ネットワークのこのような情勢の中で、大学の情報資産の気密性・可用性・完全性を適切に保ちバランスのとれた情報の公開と保持を可能にするために学術情報基盤センターでは2013年3月に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS：国際規格ISO/IEC 27001）の認証を取得しました。認証取得で情報資産のセキュリティが保証される訳ではなく毎年PDCAサイクルを回していく努力が求められ、認定を受けていかなければなりません。本年（2014年）3月に最初のサイクルに関して認証を受けます。

セキュリティと個人認証は密接な関係があり、IDとパスワードといった個人認証に必要な情報をどのように守るかはきわめて重要な問題です。これにはいくつかの考え方があり、システム毎に分散して保持した場合は各システムが堅牢なセキュリティを保持しそれを維持しなければなりません。情報システムの堅牢性を長期間維持する事はかなり大変な事で、分散したシステムの個人認証を堅牢なシステムに統合することでセキュリティを高める、という考え方があります。学術情報基盤センターではこれまで整備が遅れてきた学内の統合認証システムに着手します。最初は学生ユーザーを対象に統合認証システムを整備していきます。予算の問題もあり教職員への拡張はまだ未定ですが、近い将来に実現していきたいと考えております。

この他にもOSのサポート切れ、サイバー攻撃といったようなセキュリティに関する問題は山積しており、今後経験したことのない問題も出てくるでしょう。学術情報基盤センターといたしましては、大学内外の関係各位とも協力をしながらセキュリティの向上に努力し鹿兒島大学の発展に寄与していく所存です。

ハウジング・ホスティングサービスの紹介

情報システム開発運用管理室

1. はじめに

本学では従来から、WWWサーバに代表される様々なサーバシステムが、それぞれの部局で物理的に設置され、各部局の学術情報の発信および管理運用されており、これらサーバシステムが担う機能役割は、各部局延いては全学における教育研究活動を支える上で必要なものとなっています。また、今や学生の9割近くがスマートフォンを所持し、より多くの情報を、インターネットを通じて得ることができ、それに応えるかのように、部局から発信する情報量は増加する一方であり、それに伴ってサーバやストレージも拡張され続けていく傾向にあります。

このため、サーバが増えるごとに、その設置スペースや電源容量を確保する必要があり、かつ運用管理も大変になってきます。そこで、空調や電源などの管理や、入退室管理など物理的なセキュリティ管理が徹底されているデータセンターに自前のサーバを預けて管理する運用方法（ハウジング）と、自前でサーバ購入したりシステムを構築したりすることなく、既にデータセンターで用意されているサーバを利用する運用方法（ホスティング）があります。

一方、サーバを物理マシンで複数台運用している場合は、サーバの運用によっては、CPUやストレージなどのリソースが余り使われていない場合があります。これを仮想化基盤により1台の物理マシンに複数の仮想マシンを集約することで、サーバリソースを有効活用することにより、ハードウェアコストや運用コストを軽減することができます。これにより、近年のホスティングサービスでは、仮想マシン丸々1台を専用サーバ（VPS）として、しかも低コストで提供できるようになり

ました。

学術情報基盤センターでは、希望する部局に対して、国際的な情報マネジメント規格ISMS（ISO/IEC27001：2005、JIS Q 27001：2006）認証を受けた安全な環境にて、サーバのハウジングおよびホスティングサービスを提供しています。以下、各種サービスについて紹介します。

2. 学術情報基盤センターサーバハウジングサービス

学術情報基盤センターが提供するハウジングサービスとは、部局が用意されたサーバ機器を、学術情報基盤センターの物理的なセキュリティの整ったサーバ室に設置し、サーバの運用管理に必要なインフラ（電源、空調、ネットワーク）環境を提供するものです（図1）。機器のメンテナンスやOS、システムのセキュリティ対策などは、各部局の運用管理者が行う必要があります。



図1 ハウジングサービス

サービスを利用するには、部局ネットワーク委員会の許可を必要とし、別に定める申請書類と関係書類により、部局長を経て、学術情報基盤センター長に申請し、その承認を受ける必要があります。

3. 学術情報基盤センターサーバホスティングサービス

学術情報基盤センターが提供するホスティングサービスとは、学術情報基盤センターおよび商用パブリッククラウド上にある、サーバやインフラなどのサービスを利用するものです（図2）。

サーバ機器（ハードウェア）のメンテナンスは、学術情報基盤センターまたはサービス提供会社が行いますが、OSやシステム全般のメンテナンスやセキュリティ対策などは、各部署の運用管理者が行う必要があります。（一部サービスにおいてはOSのセキュリティ対策は学術情報基盤センターが行います。）

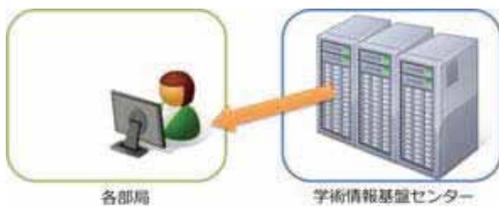


図2 ホスティングサービス

学術情報基盤センターは現在、以下の4つのホスティングサービスを提供しています（図3）。

- 共用サーバホスティングサービス
- プライベートVPSサービス
- パブリックVPSサービス
- パブリッククラウドサービス

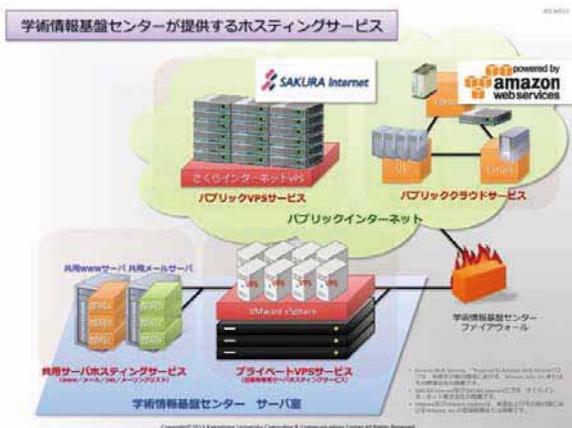


図3 学術情報基盤センターが提供する各種ホスティングサービス

このうち、「パブリックVPSサービス」および「パブリッククラウドサービス」は、平成25年6月3日より開始した新しいサービスです。また、「プライベートVPSサービス」は、平成24年度までは「部局専用サーバホスティングサービス」と呼称していたもので、平成25年度より名称変更しました。以下、順に各種ホスティングサービスの概要を紹介します。

3.1. 共用サーバホスティングサービス

学術情報基盤センターが運用管理するサーバを複数のユーザ（部局）で共有することにより、Linuxなどサーバの専門知識を必要とせず、簡単に部局ドメインでのWebサイト（ホームページ）や電子メールなどを利用できるサービスです。

共用サーバホスティングサービスとして、利用できるサービスは以下の通りです。

- 部局グローバルDNSホスティング
- 部局WWWサーバホスティング
- 部局メールサーバホスティング（利用証連携Deep Mailシステム）
- 部局メールサーバホスティング（部局運用HDE Controllerシステム）
- 部局メーリングリストホスティング（部局運用HDE Controllerシステム）
- 部局メールマガジンホスティング
- ストリーミング動画ホスティング

3.1.1. 部局WWWサーバホスティング

Webサーバで公開するコンテンツには、大別して、静的（スタティック）ページと動的（ダイナミック）ページとがあります。前者は、管理者が更新しない限り表示されるページが常に一定であり、後者は、Webページを閲覧しているユーザからのリクエストやその他外的要因によってページの内容が変化させることができるものです。本サービスでは、前者の静的Webコンテン

ツのみを扱うWWWサービスの運用が可能です。コンテンツの更新については、運用担当者のPCからSFTPによるファイル転送ツール（WinSCPなど）により可能です。

3.1.2. 部局メールサーバホスティング

本サービスは、部局で電子メールサービスを運用したい場合に最適なサービスです。電子メールユーザアカウントをどのように管理するかによって、次のタイプに分かれます。

- 利用証連携Deep Mailシステム
- 部局運用HDE Controllerシステム

まず、前者はDEEPSoft社製DEEPMailを利用したもので、学術情報基盤センターが発行する利用者IDに基づいてユーザ管理を行います。利用できるユーザは部局に所属する教職員のみとなります。電子メールアドレスは、部局ドメインを利用できますが、アカウントIDは利用者ID（例として、k0123456@sub.kagoshima-u.ac.jp）となります。ただしアカウントIDの部分は、利用者IDに代わりエイリアス（別名）を自由に付けることが可能です。ユーザは、一般的なメールソフトからの利用（SMTP/POP）およびWebメールサービスも利用可能です。平成25年度からバージョンも新しくなり、スマートフォン用の表示にも対応しています。

後者の方は、HDE社製HDE Controllerを利用したもので、ユーザアカウントの管理は部局担当者の方で行うことが可能です。従って、教職員だけでなく、学生の電子メールの管理も可能です。（学術情報基盤センターとしては、学生のメール管理は、生涯メールサービスを推奨しています。）なお、Webメールサービスは用意していませんので、メール利用者は、一般的なメールソフトからの利用（SMTP/POP）のみとなります。

3.2. プライベートVPSサービス

本サービスは、平成21年度より「部局専用サーバホスティングサービス」として提供してきました。そして、平成25年3月より教育研究用計算機システムも一新し、現在VMware社製VMware vSphere 5 Enterpriseが仮想化基盤として稼働しており、サービスの名称も変更しました。物理サーバ5台と共有ディスクシステムで構成し、仮想サーバ（VPS）を100台以上収容できる設計になっています（図4）。



図4 プライベートVPSサービスの仮想化基盤環境

VPS毎に自由にOSを選択することが可能ですが、Windows Serverなど、導入するOSにライセンス費用が発生する場合は、利用する部局が負担して頂きます。一部無料で利用できるOS（CentOS Linuxなど）については、学術情報基盤センターで準備しています。OSインストールまでは学術情報基盤センターが行いますが、それ以降は、リモートアクセス機能を利用して、各部局が運用管理を行って頂きます。

WWWサーバとして構築する場合は、前述の「部局WWWサーバホスティング」と違い、VPSを丸々1台利用できるのもので、Webアプリケーションサーバやデータベースサーバを導入して、動的Webコンテンツを扱うことが可能になります。

サービスを利用するには、ハウジングサービス同様、部局ネットワーク委員会の許可を必要とし、別に定める申請書類と関係書類により、部局長を経て、学術情報基盤センター長に申請し、その承

認を受ける必要があります。

3.3. パブリックVPSサービス

平成25年3月より教育研究用計算機システムの調達により導入した、さくらインターネット社が提供するVPSサービスによる、無料で利用可能なパブリックVPSサービスです。学内ネットワークの運用に依存しないサーバの構築が可能で、Webサイト公開、教育研究などに利用できます。利用できるOSは、CentOS、Debianなどの各種LinuxまたはFreeBSDで、その他ISOイメージファイルをアップデートして任意のOSをインストールすることも可能です。VPSの設定はWebブラウザにより、専用のVPSコントロールパネルで行えます(図5)。



図5 VPSコントロールパネル

利用できるVPSは、次の2つのタイプを準備しています。

- 小規模 VPS (メモリ: 2GB / ディスク: 200GB / CPU: 3 コア)
- 大規模 VPS (メモリ: 4GB / ディスク: 400GB / CPU: 4 コア)

VPSの数に限りがあることと、サービス提供期間が、教育研究用計算機システムリース満了(平成29年2月)までであることに注意ください。

本サービスを利用するには、別に定める申請書類により、部局長を経て、学術情報基盤センター

長に申請し、その承認を受ける必要があります。

3.4. パブリッククラウドサービス

本サービスは、SCSK社が運用する従量課金型インフラ提供サービス「USIZEパブリッククラウドモデル (AWS)」による、Amazon Web Services (AWS) が利用できるサービスです。仮想サーバ (EC2) やストレージ (S3) などのリソースを、必要なときに任意の数量だけ利用することができます。これらリソースは、Webブラウザにて管理画面によりコントロール可能です(図6)。

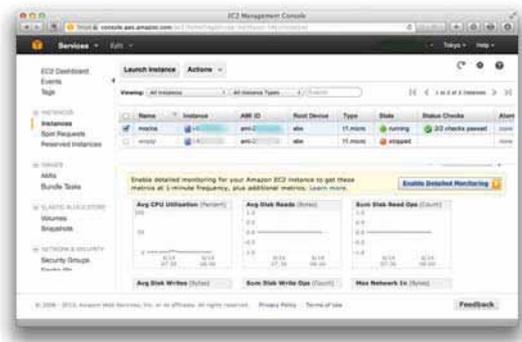


図6 AWSのEC2管理画面

これらリソースを利用した分、料金が発生しますが、利用料金はクレジットカード決済ではなく、公費にて支払うことが可能です。従って、このサービスを利用できるのは、本学に在籍する、利用料金が公費にて支払いが可能な教職員に限ります。

本サービスを利用するには、別に定める申請書類により、学術情報基盤センター長に申請し、その承認を受ける必要があります。

4. おわりに

ホスティングサービスの場合、4種類もあり、どれを利用したら良いか悩まれると思いますが、申請書を作成される前に、学術情報基盤センターまでご相談頂ければ幸いです。

パブリック VPS サービスの提供について

情報システム開発運用管理室

・ サービス概要

パブリック VPS (Virtual Private Server) サービスは、データホスティングのサービス品目の一つであり、安価に通常の専用のサーバと同じ機能を提供するサービスです。部局のウェブ公開、教育研究のためのサーバ等として利用いただけます。学術情報基盤センターでは、さくらインターネットが提供する VPS サービスを利用し、学内に無料にて提供します。



1

・ ご利用ターゲット

公開ウェブサーバ、実験等に利用する教育研究用としてご利用いただけます。
申請は部局単位になります。

・ サービス内容

サーバはさくらインターネットのパブリックネットワーク上にあります。サーバの OS としては、UNIX 系 OS (Linux, FreeBSD) が利用でき、SSH 及びウェブからの管理コンソールなどの遠隔操作にて操作します。

・ サービス詳細

パブリック VPS サービス小規模マシン：メモリ 2GB HDD 200GB 3 コア
パブリック VPS サービス中規模マシン：メモリ 4GB HDD 400GB 4 コア
ウェブから管理コンソールが利用可能
ウェブからサポート受付可能
利用可能期間：2017 年 3 月まで
利用料：無料（今後課金の可能性あり）

¹ SAKURA Internet 及び SAKURA Internet ロゴは、さくらインターネット株式会社の商標です。

・提供可能OS

CentOS 6 64bit (標準) / 32bit、CentOS 5 64bit/32bit

Scientific Linux 6 64bit/32bit、Ubuntu 10, 12, 64bit/32bit 等

・ウェブ管理コントロールパネル

図 1. ログイン画面



図 2. サーバ管理画面

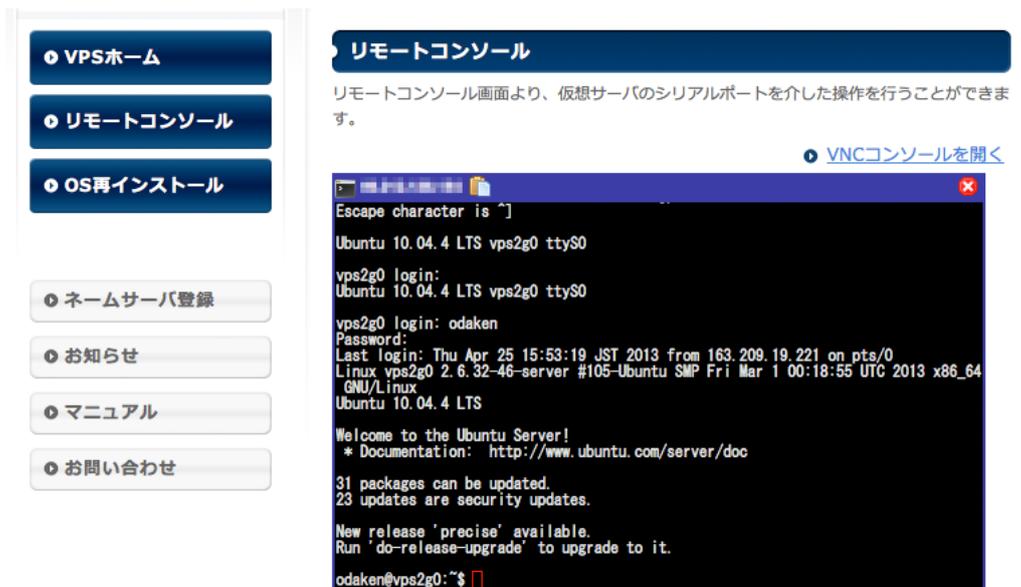


図 3. 遠隔コンソール画面

・お申し込み方法

まずは相談から承りますので、ご連絡ください。

情報システム開発運用管理室

Email : info@cc.kagoshima-u.ac.jp

パブリッククラウドサービスの提供について

情報システム開発運用管理室

・ サービス概要

パブリッククラウドサービスは、Amazon AWS (Amazon Web Services) を公費にて教職員が利用できるサービスです。本サービスでは、計算サーバ、シンプルストレージサービス、データベース、DNS サーバ、ロードバランサ、アプリケーションサーバ等の多種多様なクラウドコンピューティングサービスが従量課金制にて利用できます。利用できるサービスに制限はなく、必要なときに必要な分だけ計算リソースを即時に確保できるため、非常に柔軟なサービスとなっています。そのため教職員の教育研究や、一時的に大量のデータ処理が必要な場合などに柔軟に活用が可能なサービスとなっています。



・ ご利用ターゲット

大量のデータを用いた計算処理、データの公開等に利用する教育研究用としてご利用いただけます。申請は教職員にて可能です。

・ サービス内容

パブリッククラウドサービスは、SCSK 社の Usize Amazon AWS サービスを利用したサービスです。AWS の全サービスメニューを利用できるほか、予め予算を設定しておき、予算以上の利用を停止することができる使用制限機能を利用できます。利用料金は、AWSでの課金+15%の手数料課金になります。利用料金はドル立てによる請求になりますので、為替レートにより変動します。

¹ Amazon Web Services、“Powered by Amazon Web Services” ロゴは、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。

・ サービス詳細

- ・ Amazon AWS 全サービスメニューが利用可能
 計算とネットワーク、データベース、
 ストレージとコンテンツ配信、配備と管理、アプリケーションサービス
- ・ ウェブから管理コンソールが利用可能
- ・ 電子メールにてサポート受付可能
- ・ 利用料：AWS 利用料 +AWS 利用料の 15% の手数料課金



図 1. Amazon AWS サービスメニュー

・ VPSサービス：Amazon EC2

Amazon EC2 は、仮想プライベートサーバサービスであり、CentOS、Ubuntu、Windows Server、Oracle サーバ等をテンプレートから生成することができます（図 2）。



図 2. OS テンプレートの選択画面

Type	CPU Units	CPU Cores	Memory
T1 Micro (t1.micro) ★ Free tier eligible	Up to 2 ECUs	1 Core	613 MiB
M1 Small (m1.small)	1 ECU	1 Core	1.7 GiB
M1 Large (m1.large)	4 ECUs	2 Cores	7.5 GiB
M1 Extra Large (m1.xlarge)	8 ECUs	4 Cores	15 GiB
M2 High-Memory Extra Large (m2.xlarge)	6.5 ECUs	2 Cores	17.1 GiB
M2 High-Memory Double Extra Large (m2.2xlarge)	13 ECUs	4 Cores	34.2 GiB
M2 High-Memory Quadruple Extra Large (m2.4xlarge)	26 ECUs	8 Cores	68.4 GiB
M3 Extra Large (m3.xlarge)	13 ECUs	4 Cores	15 GiB
M3 Double Extra Large (m3.2xlarge)	26 ECUs	8 Cores	30 GiB
C1 High-CPU Medium (c1.medium)	5 ECUs	2 Cores	1.7 GiB
M1 Medium (m1.medium)	2 ECUs	1 Core	3.7 GiB
C1 High-CPU Extra Large (c1.xlarge)	20 ECUs	8 Cores	7 GiB
CC2 Cluster Compute (cc2.8xlarge)	88 ECUs	16 Cores	60.5 GiB
CR1 High Memory Cluster Compute (cr1.8xlarge)	88 ECUs	16 Cores	244 GiB
High I/O Quadruple Extra Large (hi1.4xlarge)	35 ECUs	16 Cores	60.5 GiB
High Storage Eight Extra Large (hs1.8xlarge)	35 ECUs	16 Cores	117 GiB

図 3. 仮想マシンスペックの選択画面

サーバは、メモリ 613MB、CPU1 コアから、メモリ 117GB、CPU16 コアまで多様な構成を選択できます(図 2)。

・その他サービス

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) は、オブジェクトストレージサービスと呼ばれており、ウェブ公開の PDF ファイルや動画ファイル、その他のデータファイルを安全に保存し、公開できるサービスであり、データ容量とそのアクセス量に応じて課金されるサービスです。ファイルサーバを立ち上げる必要なく、データのバックアップ先やファイルの一般公開用のサービスとして利用できます。

・お申し込み方法

まずは相談から承りますので、ご連絡ください。

計算機システム運用管理室

Email : info@cc.kagoshima-u.ac.jp

セキュリティ対策（ウイルス対策ソフト）の紹介

情報セキュリティ対策支援室

1. はじめに

今やインターネットは、教育研究活動や日常業務のみならず、普段の生活にも欠かせないものとなりましたが、それに伴いコンピュータウイルスの脅威はますます大きくなる一方で、各種コンピュータウイルスによる被害が社会問題化しています。

従来のコンピュータウイルスは、パソコンのメモリに常駐し、システムやデータファイルに危害を加えたり、愉快犯的なものだったりしましたが、近年では、データが壊れるなど危害を加えるといった攻撃性を持たず、いつの間にか感染し、パソコン内部の情報が盗み出され、悪意のある者により意のままに操られ、知らぬ間に犯罪の踏み台にされたりしてしまうケースもあります。

パソコン内部の情報を監視し、ユーザが気づかないうちに悪意のある第三者に情報を送信してしまう、こういったプログラムは、コンピュータウイルスではなくスパイウェアと呼ばれています。我々は、コンピュータウイルスだけでなく、ボットなどに代表されるスパイウェアについても対策を取らなければなりません。

こうしたスパイウェアやコンピュータウイルスなど、悪意をもって他人に被害を加えるプログラムを総称して、「マルウェア (Malware)」と呼びます。学術情報基盤センターでは、前回の電子計算機システムの調達同様引き続き、今回の調達(2013年3月運用開始)についても、キャノンITソリューションズ社の教育機関用ライセンス製品である「ESET Endpoint Antivirus」を導入しています。ESET Endpoint Antivirusは、コンピュータウイルスの他に、ルートキット、ボット、トロイの木馬などのスパイウェアも含めた、あらゆる

マルウェアを検出し、駆除します。

2. ウイルス対策ソフトの利用について

2.1. 利用資格について

学術情報基盤センターでは、キャンパス情報ネットワークに接続する機器に、ウイルス対策ソフト (ESET Endpoint Antivirus) を導入するための、十分なライセンス数を保有しており、以下の条件を満たせば、費用負担無しに利用できます。

- 使用者が、鹿児島大学の教職員または学生であること
- 主たる使用場所が、鹿児島大学内であること

使用者が離職、卒業、修了等、本学の構成員で無くなった場合は、必ずアンインストールしてください。また、学外から定義ファイルのアップデートを行うには、毎年更新されるIDとパスワードが必要です。

2.2. ウイルス対策ソフトのダウンロード

2013年3月より、以下のウイルス対策ソフトを、学術情報基盤センターのESETウイルス対策ソフトダウンロード専用Webサイト（以下、「学術情報基盤センター専用Webサイト」）(図1) からダウンロードし、インストールして使用することができます。(学内からのみ)

- Windowsクライアント用
「ESET Endpointアンチウイルス」
- Mac OS Xクライアント用
「ESET NOD32 アンチウイルス」
- Windowsサーバ用
「ESET File Security for Microsoft Windows Server」

<http://nod32.cc.kagoshima-u.ac.jp/>

図1 ESETダウンロードサイトのURL

また、以前より提供していましたが Sophos Anti-Virus (Mac OSX用、Linux用) は、引き続きご使用される方のために、2014年3月末まで定義ファイルの配信を継続します。Sophos Anti-Virus のご利用方法については、それぞれ以下のサイトをご覧ください。

- Mac OS X用
http://sophos.cc.kagoshima-u.ac.jp/
- Linux用
http://sophos2.cc.kagoshima-u.ac.jp/

いずれも学内からのみダウンロードできます。2014年4月以降、または、今後新しくウイルス対策ソフトを導入される場合は、ESET NOD32 アンチウイルスをご利用ください。Linuxサーバ用についても、「ESET File Security for Linux」を用意しています（要相談）。

個人所有で主に自宅で使用するパソコンについても、自己負担ではありますが、ウイルス対策ソフトウェアの導入は必須です。ウイルス対策ソフトの中には無償で利用できるものもありますのでご利用ください。（以下参照）

- Windows用
Microsoft Security Essentials
- Mac OS X用
Sophos Anti-Virus for Mac

また、Windows 8には、Microsoft Security Essentialsの機能を持った「Windows Defender」が、標準で搭載されています。[1]

3. Windowsへのインストール

3.1. インストーラについて

Windowsクライアントへは、ESET Endpoint アンチウイルスをインストールすることが可能です。動作環境（システム要件）については、キヤノンITソリューションズのWebサイト [2] をご覧ください。2013年3月15日現在で、学術情報基盤センターが用意している ESET Endpointアン

チウイルスのバージョンは、日本語版が5.0.2211.5、英語版が5.0.2214.4となっています。それぞれ、32bit版と64bit版があり、各インストーラには、アップデートサーバ情報（アップデートサーバ名、ユーザ名、パスワード）を既に組み込み済みです。また、インストール時に各種設定を変更できる、カスタマイズ可能インストーラも準備しています。学術情報基盤センター専用Webサイト (図1) からは、以下のファイル（インストーラ）がダウンロードできます。

表1 Windowsクライアント版各種インストーラ

ファイル名	内容
nd50jp32.exe	32bit 日本語版インストーラ
nd50jp64.exe	64bit 日本語版インストーラ
nd50en32.exe	32bit 英語版インストーラ
nd50en64.exe	64bit 英語版インストーラ
nd50jp32sup.exe	32bit 日本語版カスタマイズ可能インストーラ
nd50jp64sup.exe	64bit 日本語版カスタマイズ可能インストーラ

ご使用の環境にあったファイルをダウンロードし、実行します。設定は事前に組み込み済みですのでインストール中の操作は不要です。インストーラの指示に従って進めてください。

3.2. インストール時の注意

Internet Explorer 9 を利用でWindows SmartScreen フィルタを有効にしている場合、インストーラ ファイルをダウンロードして実行しようとした際、「ダウンロードしたユーザの人数が少ないため、コンピュータに問題を起す可能性があります」など警告メッセージが表示されます。その場合は、ダイアログが表示された状態で、[詳細オプション] を選択し、続いて [操作] を選択、その後 [実行] を選択することで、インストーラを実行することができます。

また、途中で「1」とだけ表示されるダイアログが表示されインストールに失敗する場合は、既に他のウイルス対策ソフトウェアが入っていることをESETが検出したためです (図2)。まずは既

に入っているウイルス対策ソフトウェアをアンインストールし、再度インストールをお試しください（Windows 8の場合、Windows Defenderはアンインストールする必要はありません）。解決しない場合は、カスタマイズ可能インストーラ（nd50jp32sup.exe, nd50jp64sup.exe）を使用すると、インストールの途中でESETが何を検出したのかが表示されます。全く心当たりのないウイルス対策ソフトウェアが表示される場合は、誤検出の可能性も考えられますので、その際は、[無視する]を選択してインストールを強行してください。

図2 「1」とだけ表示されるダイアログ



4. Mac OS Xへのインストール

4.1. インストーラについて

Mac OS Xへは、ESET NOD32アンチウイルスをインストールすることが可能です。動作環境（システム要件）については、キヤノンITソリューションズのWebサイトをご覧ください。2013年3月15日現在で、学術情報基盤センターが用意しているESET NOD32アンチウイルスのバージョンは、4.1.86.4です。インストーラファイルは「eav_mac_JPN.dmg」で、Windows版と同様、学術情報基盤センター専用Webサイト（図1）よりダウンロード可能です。

4.2. インストール方法

ダウンロードしたファイルに含まれる「インストール」をクリックしてインストールを進めます。設定は組込まれていませんので、インストーラの指示に従って進めてください。必要な設定事項は、以下のとおりです。

- インストールモード：一般

- アップデートサーバ：
<http://nod3240.cc.kagoshima-u.ac.jp/>
- 「TreatSense.Net早期警告システムを...」のチェックを外す。

アップデートサーバは図3の画面の「編集」をクリックし、予め「アップデートサーバリスト」へ追加してから選択してください。ユーザ名とパスワードは、学術情報基盤センター専用Webサイト（図1）より確認してください。インストール終了後は再起動が必要です。ダウンロードしたファイルは削除しても構いませんが、アンインストールするときには必要です。



図3 アップデートサーバの設定

5. 定義ファイルの更新について

Windows用、Mac OS X用とも、ウイルス定義ファイルのアップデートサーバは学内に設置されており、学外からのアクセスにはIDとパスワードが必要です。インストーラには、1年間有効なIDとパスワードが組み込まれていますので、期限までは学内外の区別なく定義ファイルのアップデートが可能です。

学外から定義ファイルのアップデートを行う必要がある場合は、学術情報基盤センター専用Webサイト（図1）より、ユーザ名とパスワードを確認し、各自で更新してください。これは、ソフトウェアライセンスの適切な管理上、卒業生や離籍者による意図しない不正使用を予防するための措置になります。

6. ウイルスに感染してしまったら

どんなに警戒していても、他人のUSBメモリを利用したり、Webサイトを閲覧したりしただけでウイルスに感染してしまうことがあります。もし、ウイルスに感染してしまった場合は、以下の手順で対策を行ってください。詳細は、学術情報基盤センター情報セキュリティ対策支援室のWebサイトウイルス感染時の対処方法 [3] をご覧ください。

1. 感染の拡大を防ぐために、LANケーブルを抜いてください。無線LANの場合は無線LAN機能をOFFにしてください。
2. ウイルス名が分かるようでしたら、メモします。
3. ウイルス対策ソフトで駆除します。ウイルス対策ソフトを利用していない場合は、各ベンダーが提供しているウイルス駆除ツールをダウンロードし、それぞれツールの説明に従って駆除を行います。
4. ウイルス対策ソフトを更新し、コンピュータ全体のウイルス検査を行います。

以上が、ウイルスに感染してしまった場合の対策方法ですが、確実にウイルスを駆除できるのは、必要なデータをUSBメモリ等に待避した後、フォーマットとOS・アプリケーションの再インストール（とアップデート）を行う方法です。この場合、USBメモリに退避したデータの中にウイルスがある場合もありますので、ウイルス対策ソフトを最新に更新した後、USBメモリをコンピュータに差し込み、データをコピーするようにしてください。

きちんと復旧できた後でも、感染源を絶たなければ再度感染してしまう恐れがあります。他人からもらったファイルやネットワーク経由で取得したファイル、あるいは疑いのあるWebサイト、考えられる感染源については、すべて利用する前に警戒をお願いします。

7. おわりに

2013年6月現在、Webサイトが改ざんされ、意図しないJavaScriptが埋め込まれる事象や、その改ざんされたWebサイトを閲覧したパソコンが、マルウェアに感染してしまう（いわゆるドライブ・バイ・ダウンロード攻撃を受ける）事象が多数発生しており、警視庁やJPCERTコーディネーションセンターが注意喚起を行っています [4] [5]。これは改ざんされたWebサイトを閲覧した際に攻撃サイトへ誘導され、パソコン内に脆弱性対策がされていないJavaやAdobe Reader、Adobe Flashがインストールされている場合にマルウェアに感染するというものです。特にWebサイト管理者のパソコンに感染してしまった場合、FTPアカウントが漏洩し、管理しているWebサイトが改ざんされてしまうので注意が必要です。

このようにソフトウェアの脆弱性を突いて攻撃してくるマルウェアが存在します。これに対処するために、ウイルス対策ソフトの更新はもちろんのこと、OSやソフトウェアを常に最新版にしておく必要があります。

参考文献

- [1] Windows DefenderとWindows SmartScreenでウイルスやその他のマルウェアに対処する- Microsoft Windows
<http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows-8/windows-defender>
- [2] キヤノンITソリューションズ：ESET Endpoint Security & ESET Endpoint アンチウイルス：ライセンス製品 ESET Smart Security V4.2 動作環境
<http://canon-its.jp/product/eset/license/eea/spec.html>
- [3] 学術情報基盤センター情報セキュリティ対策支援室 ウイルス感染時の対処方法
<http://sec.cc.kagoshima-u.ac.jp/disinfection>
- [4] 外見上変化のないウェブサイト改ざん事案の多発について [PDF]（警察庁）
<http://www.npa.go.jp/cyberpolice/detect/pdf/20130607.pdf>
- [5] Webサイト改ざんに関する注意喚起（JPCERT/CC）
<http://www.jpccert.or.jp/at/2013/at130027.html>

ISMS の概要

山之上 卓

鹿児島大学を含む多くの大学は学生や教職員にネットワークやネットワークに接続されたコンピュータを提供していて、学生や教職員は電子メールや他のサービスを学内で利用できるようにしています。大学のネットワークはインターネットにも接続されており、学内の利用者はインターネットを通じて世界中の情報を手に入れることや世界中に情報発信することが可能になっています。このような状況において、情報セキュリティは、これらのすべての大学にとって最も重要な事項の一つです。情報セキュリティは人と運用と技術の3本柱によって実現可能です。学術情報基盤センターでは人の面の情報セキュリティの強化に関し、情報倫理ビデオを提供しています。技術の面については商用情報セキュリティ監視サービスを利用やファイヤーウォールの設置やウィルス対策ソフトの利用や迷惑メール対策システムの利用などを行っています。

しかしながら、学術情報基盤センターは情報セキュリティポリシー以外に情報セキュリティの運用面の標準的な対策を最近まで持っていませんでした。このことは、大学間連携を行う場合の障害にもなりました。なんらかの標準的な運用手段を持つことは利用者の信頼を得る手段になります。このような問題に対処するため、我々は情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS、JISQ27001）の導入を決定し、2013年4月にISMSの認証を受けました。

ISMSは情報セキュリティの世界的な標準規格として良く知られています。JISQ27001は組織が望む情報セキュリティのレベルをISMS Plan-Do-Check-Act（PDCA）と呼ばれる方法によって達成することを支援しています。

参考

情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）とは <http://www.isms.jp/dec.or.jp/isms/>

基本方針

ISMS 基本方針

国立大学法人鹿児島大学 学術情報基盤センター（以下「当センター」という）は、本学に対する学術情報基盤（当センターの教育・研究用電子計算機システム、当センター内のネットワーク、業務用情報システムの運用支援）サービスを提供している。当センターとしての情報セキュリティの内部統制及び情報セキュリティマネジメントに関する責務は、当センターの重要な使命として位置付けている。

当センターは、当センターが管理する情報資産を守り、当センターが行うサービスの機密性、完全性、可用性を確保するためのISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）基本方針を定める。当センターの職員はISMSを遵守し、その維持、向上に努めなければならない。

1. 適用範囲

当センターのサービスを構成する情報・技術的資産・人的資産・物理的資産を適用範囲とする。当センターの推進組織、関連する利害関係者とセキュリティ上の役割・責任を明確にして、情報セキュリティの確立・向上及び継続的な改善を行う。

2. 目的

情報資産の機密性及び可用性を重視し、提供サービスの完全性及び可用性が損なわれることがないよう情報セキュリティの向上を目指す。

3. 法令遵守と監査・評価

当センターは、不正競争防止法、不正アクセス禁止法、著作権法、知的財産基本法、独立行政法人等個人情報保護法、刑法等の法令等及び ISMS 関連規則・基準並びに各種外部との契約を遵守する。

4. 情報セキュリティ組織と教育

情報セキュリティ要求事項の審議及び対策の企画・実施・評価を行うために情報セキュリティ管理責任者及び ISMS 事務局を設置する。情報セキュリティ管理責任者は、情報セキュリティについて、統括責任者に上申して決定を仰ぐものとする。また内部監査責任者を任命し、定期監査により各種法令、情報セキュリティ方針、各種規程・手順の遵守状況を確認し、運用に反映することで ISMS の継続的改善に努めるものとする。

当センターの教職員に対しては、情報セキュリティの教育、訓練を定期的実施し、セキュリティに対する意識を高めるものとする。

5. リスクアセスメント

業務遂行上必要な情報資産の洗い出しを行い、情報資産の特性に合わせて適切に分類、アセスメント、保護・管理する。なお、リスクアセスメントは客観的に体系化され、重要なリスクを有効に見出す仕組みとし、継続して見直しを行うものとする。また、システムの停止及び誤作動は当センター業務において重大な影響を及ぼすため、その完全性、可用性を重視する。情報資産の脅威と脆弱性、事業上の要求事項、法的要求事項への対応も識別する。また、事業継続の安定化と利用者の満足を確実なものとする。

6. 継続的改善

当センターは、上記1～5の取り組みを定期的に見直し、その結果に応じて適切な対策を講じることで、ISMS の継続的な改善に努める。

以上

制定日 2012年11月6日
国立大学法人鹿兒島大学
学術情報基盤センター長

ブロードバンド普及率の地域差に関する考察

学術情報基盤センター 升屋 正人

はじめに

総務省の集計によると、下り伝送速度が30Mbps以上であるFTTHやCATVなどの固定系超高速ブロードバンドアクセスサービスの世帯カバー率は、2012年3月末現在で97.3%である。衛星や第3.5世代携帯電話まで含めたすべてのブロードバンド情報通信基盤を対象とすると、そのカバー率は100%を超え、わが国においてはほぼすべての世帯でブロードバンドの利用が可能であるという。

ブロードバンドが利用できることで、電子メールやWebサイトの閲覧をはじめ、高速・大容量のデータ送受信が必要なテレビ電話や映像配信サービスの利用が可能であるほか、オンラインショッピングやSNSなどのサービスも円滑に利用できる。また、ブロードバンドはIP電話サービスや見守りサービスなどの日常生活に密着したサービスの基盤としても用いられており、今や生活に欠かすことができないものになっている。

ところが、すべての世帯でブロードバンドが利用されているわけではない。2012年3月末現在の固定系ブロードバンド契約数は3,723万世帯、世帯普及率は68.7%にとどまる。他の情報通信に関する指標である携帯電話の世帯普及率94.5%やパソコンの世帯普及率77.4%と比べると低い。また、ブロードバンド契約数は地域差が大きく、都道府県別のブロードバンド世帯普及率は東京の91.0%から鹿児島県の40.1%まで2倍以上の大きな開きがある。9割を超える世帯がブロードバンドを利用している地域と、過半数以上がブロードバンドを利用していない地域があることになる。携帯電話やパソコンの世帯普及率も地域差は見られるが、ブロードバンドほど大きくはない。

全国の中でも九州は全体的にブロードバンドの世帯普及率が低い。最下位の鹿児島県をはじめとして、ワースト10に宮崎県、長崎県、佐賀県、熊本県が入り、半数を九州が占める。これらの県では普及率は50%を超えない。大分県はわずかに普及率が高いものの下位に位置する。九州最上位の福岡県であっても全国平均に及ばない普及率である。

今や日常生活に欠かすことができないものであるはずのブロードバンドに、なぜこのように大きな普及率の地域差があるのかを考察してみた。

高齢化率との相関は低い

ブロードバンド普及率の地域差の要因として一般に言われているのが、高齢化の影響である。地域情報化に関する各種のアンケートの回答からも、高齢者はブロードバンドを必要とせず、ブロードバンドサービスが提供されていても加入しない傾向にあると言える。高齢者のみ世帯率とブロードバンド普及率の関係をプロットしたのが図1である。

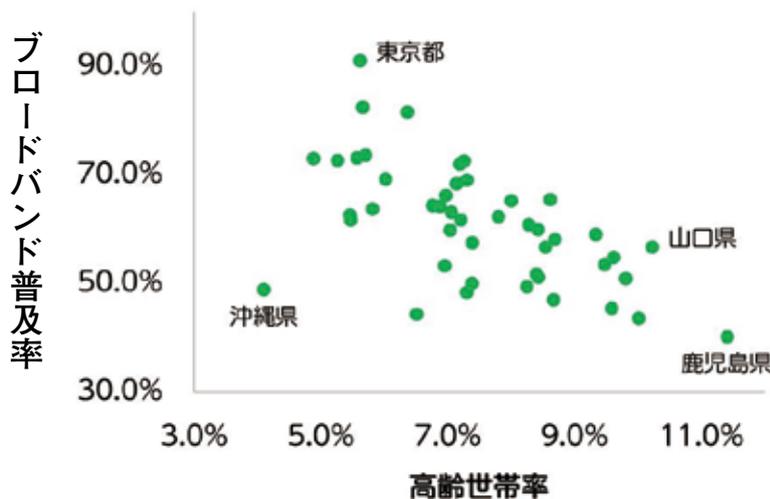


図1：高齢者のみ世帯率とブロードバンド普及率

図1より、高齢者のみ世帯率が高いとブロードバンド普及率が低い傾向があることがわかる。ところが、その相関は必ずしも高いとは言えず、例外もある。例えば、高齢者世帯率が最も低い沖縄県のブロードバンド普及率は高くはなく下位である。また、高齢者世帯率が全国2位の山口県のブロードバンド普及率は中位の31位である。さらに、ブロードバンド普及率の最上位と最下位に50ポイント以上の差があるのに対し、都道府県別の高齢化率の差は10ポイント以下である。これらのことから、高齢化が影響を与えているにしても、ブロードバンド普及率と高齢化率との間に直接の因果関係があるとは言い難い。

利用したくても利用できない世帯の割合が影響

ブロードバンドを必要としていない世代（＝高齢者）の割合と普及率の間に因果関係が見られないということは、ブロードバンド普及率が低い地域では「必要ないから使わない」のではないということになる。そこで、「必要なのに使えない」ことが普及率に影響を与えているのではないかと考えた。

ブロードバンドに契約していなくてもインターネットの利用はできる。これは、インターネット普及率がブロードバンド普及率を上回っていることからわかる。情報通信利用動向調査によるインターネット人口普及率を見ると、鹿児島県は全国最下位ではなく、九州では福岡県、佐賀県に次いで3位である。最上位と最下位の差はブロードバンド普及率のように2倍を超えるほどではなく、青森県の66%から神奈川県88%の間に収まっており、平均は77%である。

インターネットの利用者は、ブロードバンドサービスが提供されているならそれを利用するはずである。このため、インターネット普及率は潜在的な利用者も含めた理想的なブロードバンド普及率と見なすことができるとして考える。

世帯数をH、インターネット普及率をDとすると、理想的なブロードバンド契約世帯数Iは

$$I = H \times D$$

で求められる。ブロードバンドを利用してもおかしくないのに利用していない潜在的なブロードバンド契約世帯数Lは、理想的なブロードバンド契約世帯数Iから実際のブロードバンド契約世帯数Aを減じることで求められるため、

$$L = I - A$$

となる。これより、潜在的なブロードバンド契約世帯割合Sは、以下の式で求められる。

$$S = L \div H = D - A \div H$$

インターネット普及率Dからブロードバンド普及率A÷Hを減じたものが潜在的なブロードバンド契約世帯割合Sとなる。各都道府県について、潜在的なブロードバンド契約世帯割合Sを求めたものを図2に示す。

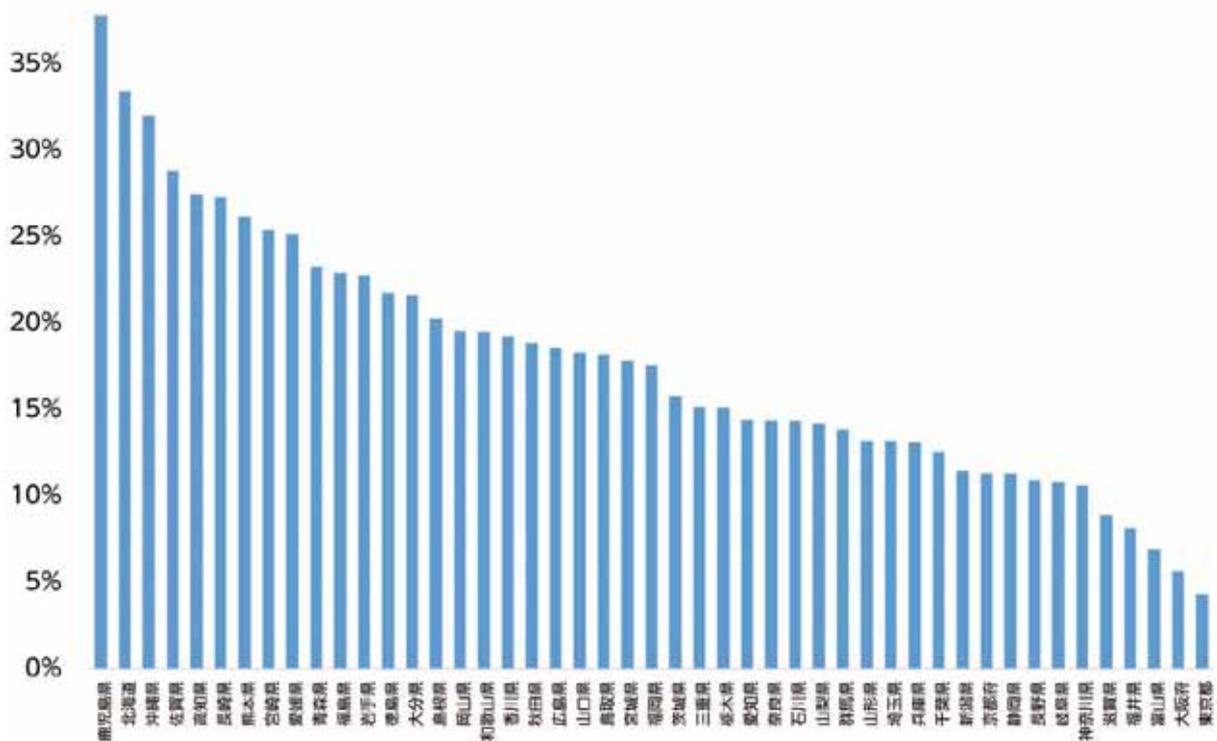


図2：都道府県別の潜在的なブロードバンド契約世帯割合

図2を見ると、鹿児島県が全国一位となっている。この割合Sとブロードバンド普及率A÷Hには相関係数0.9という高い負の相関が見られる。つまり、ブロードバンド普及率が低い都道府県では、「使いたくても使えない」潜在的なブロードバンド利用世帯が多いということになる。

まとめ

利用したくても利用できない世帯が多い状況になっている最大の理由は、ADSL サービスの対象世帯を正確に求められないことにある。超高速ブロードバンドの一つに位置づけられている ADSL は、電話交換局からの距離が大きくなると通信速度が低下するなどして利用できない。このため、電話交換局に設備が導入され ADSL 提供地域（＝ブロードバンドサービス提供地域）とされていても、実際には利用できない世帯が多く存在していることになる。

FTTH の場合にはサービス提供地域と契約可能地域が同一である。このため、FTTH の整備が進み、ADSL を置き換えて行くにつれて、ブロードバンド普及率がインターネット普及率に近づき、地域差が縮小して行くものと思われる。

IT 相談室報告

利用者支援室

学術情報基盤センター利用者支援室では、本学の学生・教職員からのITに関する様々な質問・相談に対応するための「IT相談室」を設置しています。2013年は合計258件の利用がありました（表1）。

相談内容と相談者の内訳はそれぞれ図1、図2のようになっています。電子計算機システムの更新に伴い、ソフトウェアサービスに変更があったことなどから、前年と比較してソフトウェアについての相談が多くなっています。また相談者の内訳では、前年と比較して教職員の割合が増えています。

表1. 2013年IT相談件数（月別）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	23	10	12	53	15	23	23	26	27	30	4	12	258

(参考) 2012年：277人

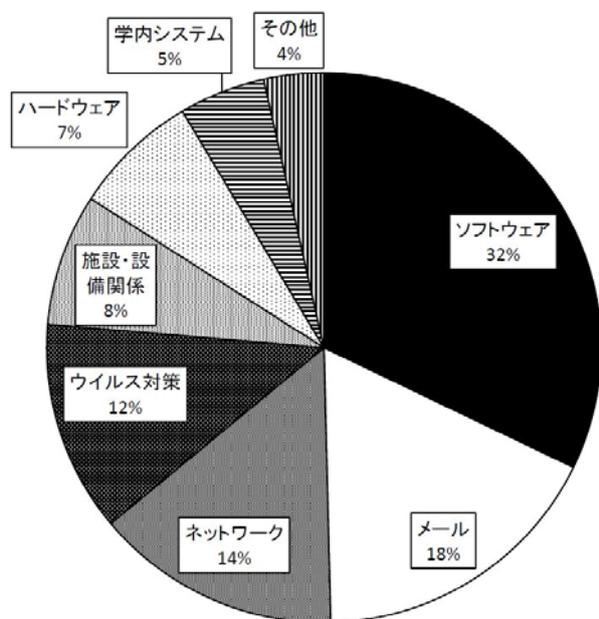


図1. 相談内容の内訳 (2013年1月～12月)

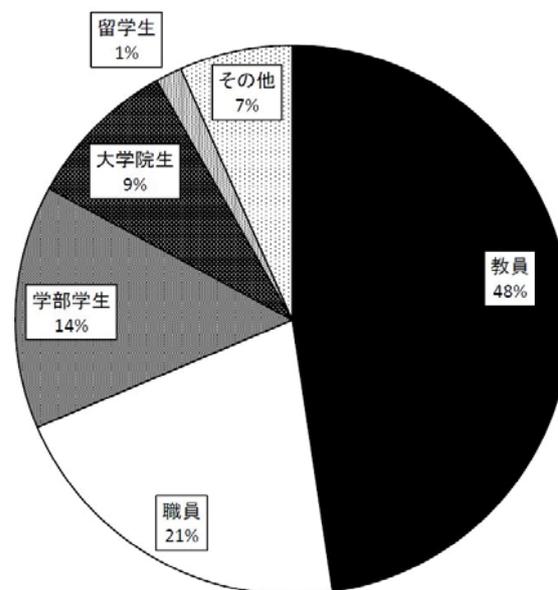


図2. 相談者の内訳 (2013年1月～12月)

IT相談室について

【場 所】学術情報基盤センター 1F 業務室 業務室

【受付時間】8：30～17：00

【相談方法】直接窓口にお越しになるか、
電話またはメールで連絡下さい

【電 話】099-285-7474

【メー ル】info@cc.kagoshima-u.ac.jp

機器の不調等の場合は直接お持ちください。
その際、担当者が不在の場合がありますので、
事前に電話かメールでご確認ください。



ストリーミングサーバアクセス件数

情報システム開発運用管理室

学術情報基盤センターでは、Windows Media サービスによる動画ストリーミングサービスを行っており、大学紹介ビデオや e-learning コンテンツなどを学内外へ配信しています。過去2年間におけるストリーミングサーバへのアクセス件数は図1のようになっています。

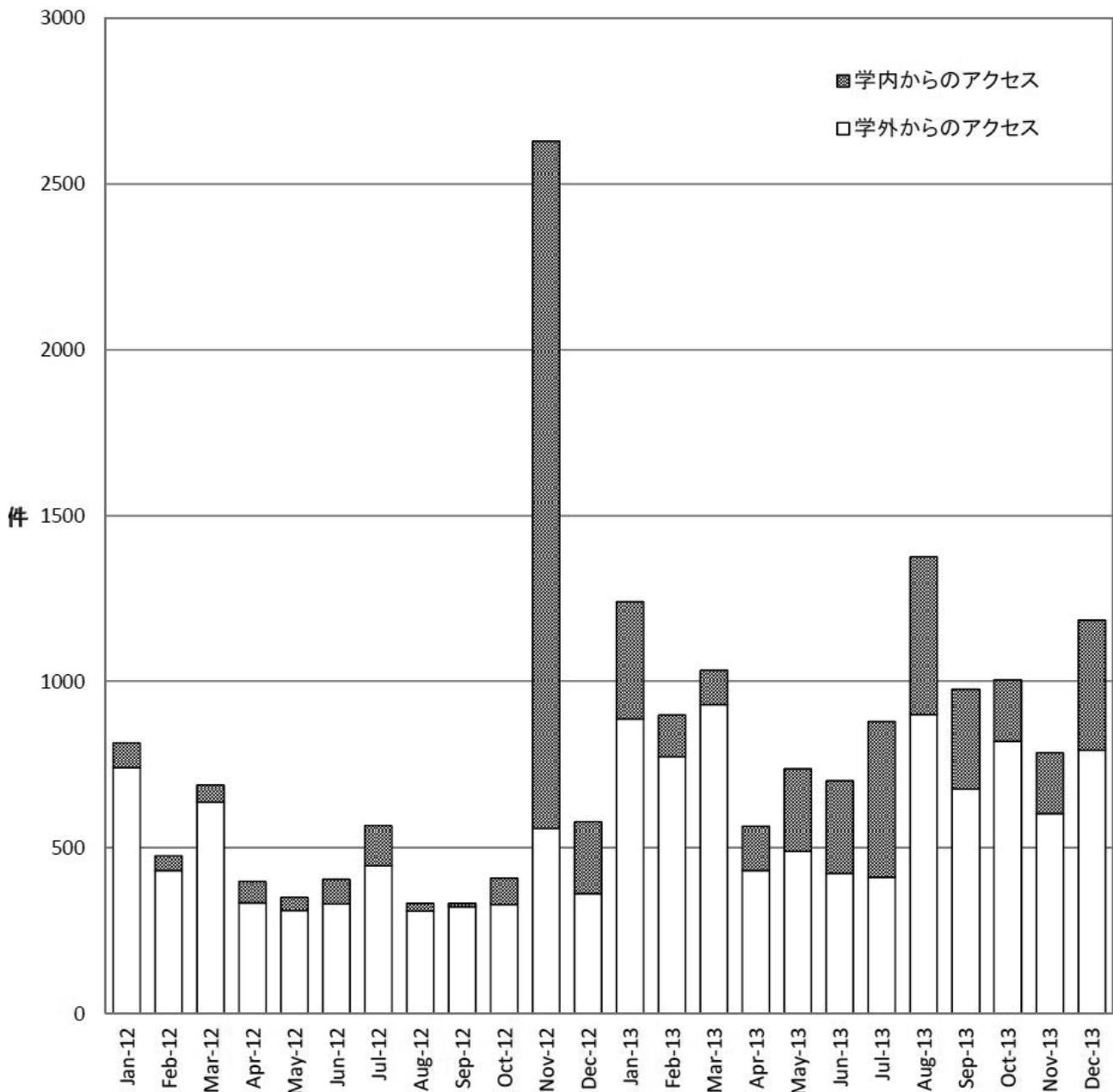


図1. ストリーミングサーバへのアクセス件数 (2012年1月～2013年12月)

窓口来訪者数

利用者支援室

2013年におけるセンター1F業務室の窓口来訪者数は合計2,652人で、2012年の3,982人より大幅減となりました。主な理由として、3月よりソフトウェア配布サービスの運用をWebベースのオンライン申請後、各自でダウンロードできる方式へと切り替えたため、以前のようにソフトウェア利用申請書の提出やメディアの授受のために窓口へ足を運ぶ必要がなくなったためです。

なお、大判印刷利用は他の用件とは異なり、例年2月、7～9月に多い傾向があります。

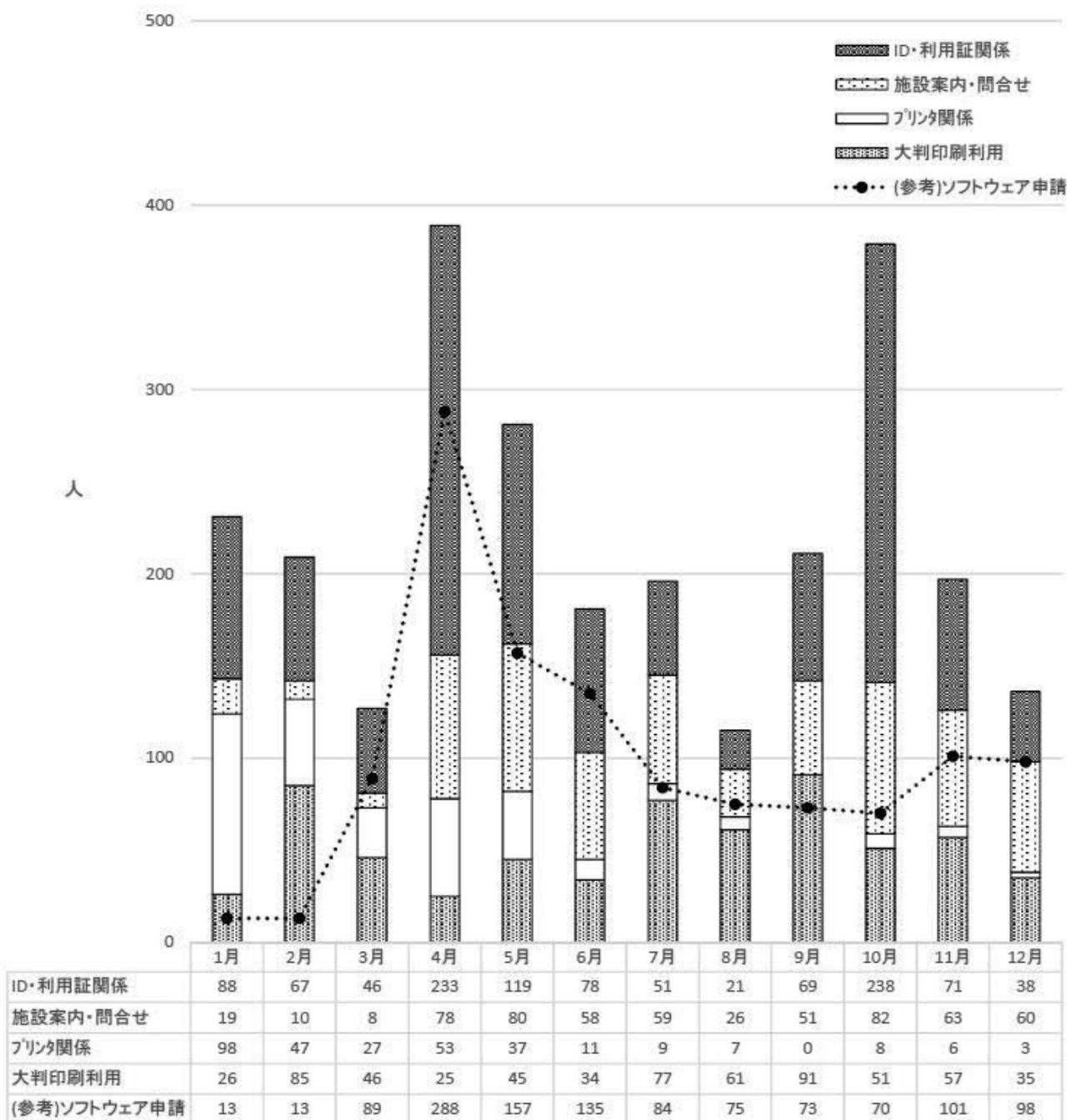


図1. 用件別にみた2013年各月の窓口来訪者数（ソフトウェア申請は3月よりオンライン受付）

マルチメディアスタジオでのTV会議システム利用実績

利用者支援室

学術情報基盤センター 2Fのマルチメディアスタジオには、多地点接続可能なTV会議システム一式が導入されており、遠隔地との打ち合わせ等に活用できるよう、主に学内の教職員向けに開放しています。2013年1月1日～2013年12月31日の期間中、76件の利用がありました。(参考) 2012年：78件

表1. マルチメディアスタジオでのTV会議システム利用実績 (センター教職員の利用は除く)

No.	日付	時間	No.	日付	時間	No.	日付	時間
1	1/8	10:00-12:00	27	5/1	11:00-12:00	53	7/18	13:00-15:00
2	1/9	10:00-11:30	28	5/2	11:00-14:00	54	7/19	10:00-12:00
3	1/10	10:00-12:00	29	5/9	13:00-15:00	55	7/26	10:00-12:00
4	1/22	10:00-12:00	30	5/14	9:00-10:30	56	7/26	12:00-17:00
5	1/24	12:00-14:30	31	5/17	10:00-12:00	57	7/31	10:00-12:30
6	1/29	10:00-12:00	32	5/24	10:00-12:00	58	8/2	10:00-12:00
7	2/5	10:00-12:00	33	5/28	9:00-10:30	59	8/5	10:00-12:00
8	2/7	13:00-14:30	34	5/28	17:00-20:00	60	8/7	10:00-12:00
9	2/8	10:00-12:00	35	5/31	10:00-12:00	61	8/12	12:30-13:30
10	2/19	10:00-12:00	36	6/4	17:00-20:00	62	8/20	9:00-11:00
11	2/22	10:00-12:00	37	6/6	13:00-15:00	63	8/22	11:00-12:00
12	2/22	13:00-14:30	38	6/6	17:00-20:00	64	8/22	13:00-15:00
13	3/5	10:00-12:00	39	6/11	9:00-10:30	65	8/27	16:30-17:00
14	3/7	10:00-12:00	40	6/12	10:00-12:00	66	8/30	10:00-12:00
15	3/7	13:00-14:30	41	6/14	10:00-12:00	67	9/2	9:00-11:00
16	3/19	10:00-12:00	42	6/17	10:00-12:00	68	9/4	10:30-12:30
17	3/22	10:00-12:00	43	6/20	13:00-15:00	69	9/5	10:30-12:30
18	3/22	13:00-14:30	44	6/21	10:00-12:00	70	9/12	11:00-13:00
19	4/2	10:00-12:00	45	6/28	10:00-12:00	71	9/13	10:00-12:00
20	4/4	10:00-12:00	46	7/2	9:00-11:30	72	10/16	17:00-20:30
21	4/5	10:00-12:00	47	7/4	13:00-15:00	73	10/23	17:00-20:30
22	4/16	10:00-12:00	48	7/8	10:00-12:00	74	10/30	17:00-20:30
23	4/17	12:00-13:00	49	7/9	9:00-10:30	75	11/12	14:30-17:00
24	4/18	13:00-15:00	50	7/12	10:00-12:00	76	12/17	12:00-14:30
25	4/19	10:00-12:00	51	7/16	15:00-17:00			
26	4/30	10:00-11:00	52	7/17	10:00-12:30			

教室計算機システム PC 利用件数

計算機システム運用管理室

各端末室に設置されている教室計算機システムPCの利用件数は下記の通りです。中央図書館、基盤センター第1端末室、基盤センター第2端末室、桜ヶ丘図書館の利用が多くなっています。

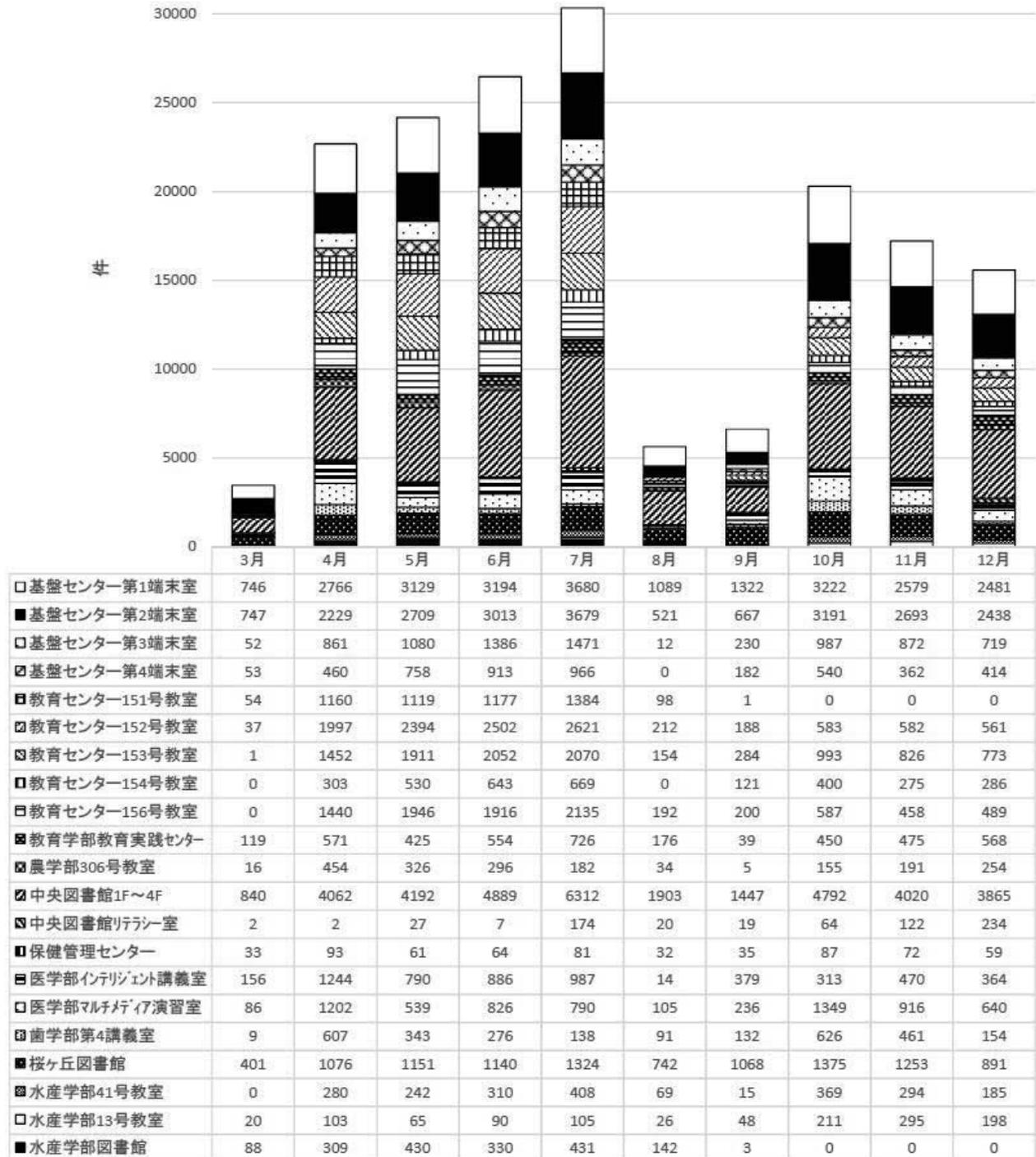


図1. 2013年における各端末室PCの利用件数 (PCへのログオン1回につき1件)

※ 9月から改修工事に伴い水産学部図書館は閉館、教育センターは仮設端末室へ変更

2013年度 共通教育棟端末室利用状況

学術情報基盤センター端末室

2013年度 前期

		第1端末室	第2端末室	第3端末室	第4端末室
月	1	8:50 ~ 10:20	発生生物学	プログラミング演習	情報活用基礎
	2	10:30 ~ 12:00	情報物理演習Ⅱ	情報メディアとインターネット	
	3	12:50 ~ 14:20		情報活用基礎	化学情報分析実習
	4	14:30 ~ 16:00			化学情報分析実習
	5	16:10 ~ 17:40	エンドユーザ実習Ⅰ	エンドユーザ実習Ⅰ	化学情報分析実習
火	1	8:50 ~ 10:20			
	2	10:30 ~ 12:00	情報活用基礎	情報計測科学	情報活用基礎
	3	12:50 ~ 14:20	データベース論	プログラミング演習	ゲノム情報学特論
	4	14:30 ~ 16:00		プログラミング演習	土木設計及び総合演習
	5	16:10 ~ 17:40	エンドユーザ実習Ⅰ	エンドユーザ実習Ⅰ	機械工作実習
水	1	8:50 ~ 10:20	システム構築実習	物理と数学のためのeラーニングによる基礎教育	
	2	10:30 ~ 12:00			
	3	12:50 ~ 14:20			
	4	14:30 ~ 16:00			
	5	16:10 ~ 17:40			
木	1	8:50 ~ 10:20	セミナー・学問のススメ		
	2	10:30 ~ 12:00		プログラム言語	発生細胞学特論
	3	12:50 ~ 14:20	3次元CAD基礎	3次元CAD基礎	
	4	14:30 ~ 16:00	3次元CAD基礎	3次元CAD基礎	化学情報分析実習
	5	16:10 ~ 17:40			化学情報分析実習
金	1	8:50 ~ 10:20	シミュレーション物理学入門		
	2	10:30 ~ 12:00	セミナー・学問のススメ	キャリア・恋人・コミュニケーションの社会学	数理生態学
	3	12:50 ~ 14:20	英語コアC	文化リサーチ演習	建築実験
	4	14:30 ~ 16:00	現代メディア文化論演習	現代メディア文化論演習	建築実験
	5	16:10 ~ 17:40			建築実験

2013年度 後期

		第1端末室	第2端末室	第3端末室	第4端末室
月	1	8:50 ~ 10:20		科学論文講読法	コース基礎演習Ⅱ
	2	10:30 ~ 12:00			
	3	12:50 ~ 14:20	情報活用基礎	インターネットと物理英語	
	4	14:30 ~ 16:00		プログラム基礎と演習	特殊研究
	5	16:10 ~ 17:40	エンドユーザ実習Ⅱ	エンドユーザ実習Ⅱ	
火	1	8:50 ~ 10:20		プログラミング演習	
	2	10:30 ~ 12:00		情報物理学演習Ⅰ	
	3	12:50 ~ 14:20	人文科学基礎Ⅱ	分子情報工学	土木設計及び総合演習
	4	14:30 ~ 16:00			土木設計及び総合演習
	5	16:10 ~ 17:40	エンドユーザ実習Ⅱ	エンドユーザ実習Ⅱ	法情報論
水	1	8:50 ~ 10:20	機械工学セミナー	有機量子化学	英語コア再(R)
	2	10:30 ~ 12:00	いのちと地域を守る防災学Ⅱ	いのちと地域を守る防災学Ⅱ	いのちと地域を守る防災学Ⅱ
	3	12:50 ~ 14:20			
	4	14:30 ~ 16:00	かごしまカレッジ教育		
	5	16:10 ~ 17:40			
木	1	8:50 ~ 10:20			
	2	10:30 ~ 12:00		宇宙情報システム	
	3	12:50 ~ 14:20			分析化学実験
	4	14:30 ~ 16:00	海洋物理環境学演習	生物情報科学	分析化学実験
	5	16:10 ~ 17:40	エンドユーザ実習Ⅲ	エンドユーザ実習Ⅲ	分析化学実験
金	1	8:50 ~ 10:20			
	2	10:30 ~ 12:00	人文科学基礎Ⅱ	プログラミング基礎演習	
	3	12:50 ~ 14:20	英語コアO		情報工学実験Ⅳ
	4	14:30 ~ 16:00		顔の心理学	情報工学実験Ⅳ
	5	16:10 ~ 17:40	エンドユーザ実習Ⅲ	エンドユーザ実習Ⅲ	演習

2013年度 前期

		151教室	152教室	153教室	154教室	156教室
月	1	8:50 ~ 10:20	情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎
	2	10:30 ~ 12:00				
	3	12:50 ~ 14:20			情報活用基礎	
	4	14:30 ~ 16:00				
	5	16:10 ~ 17:40				特殊研究
火	1	8:50 ~ 10:20	英語コアU		英語コアU	
	2	10:30 ~ 12:00	情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎	英語オープン
	3	12:50 ~ 14:20	人文科学基礎	人文科学基礎	人文科学基礎	人文科学基礎
	4	14:30 ~ 16:00	情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎	基礎演習
	5	16:10 ~ 17:40		情報活用基礎	プログラミング演習 I	情報活用基礎
水	1	8:50 ~ 10:20	英語オープン	英語オープン	セミナー・学問のススメ	セミナー・学問のススメ
	2	10:30 ~ 12:00		情報活用基礎	情報活用基礎	
	3	12:50 ~ 14:20				英語オープン
	4	14:30 ~ 16:00				英語オープン
	5	16:10 ~ 17:40				
木	1	8:50 ~ 10:20	かごしまカレッジ教育	かごしまカレッジ教育		セミナー・学問のススメ
	2	10:30 ~ 12:00	海外留学準備・異文化理解入門	かごしまカレッジ教育	心理学統計演習	
	3	12:50 ~ 14:20				
	4	14:30 ~ 16:00	社会言語学演習	情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎
	5	16:10 ~ 17:40		情報活用基礎	情報活用基礎	
金	1	8:50 ~ 10:20			セミナー・学問のススメ	
	2	10:30 ~ 12:00		細胞生物学	情報活用基礎	情報活用基礎
	3	12:50 ~ 14:20	情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎
	4	14:30 ~ 16:00		情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎
	5	16:10 ~ 17:40	情報活用基礎	情報活用基礎	情報活用基礎	演習

仮設端末室(プレハブ)

2013年度 後期

		1号教室	2号教室	3号教室	
月	1	8:50 ~ 10:20	計算機論 I		
	2	10:30 ~ 12:00			
	3	12:50 ~ 14:20			
	4	14:30 ~ 16:00		情報活用基礎	
	5	16:10 ~ 17:40	数値計算とプログラム	数値計算とプログラム	国際理解教育調査研究 II
火	1	8:50 ~ 10:20		地域計量分析	
	2	10:30 ~ 12:00		情報活用基礎	
	3	12:50 ~ 14:20	人文科学基礎 II	人文科学基礎 II	人文科学基礎 II
	4	14:30 ~ 16:00		情報活用基礎	
	5	16:10 ~ 17:40	教職基礎研究	教職基礎研究	教職基礎研究
水	1	8:50 ~ 10:20		英語コア再(O)	
	2	10:30 ~ 12:00		DNAの科学	
	3	12:50 ~ 14:20			
	4	14:30 ~ 16:00			
	5	16:10 ~ 17:40			
木	1	8:50 ~ 10:20			
	2	10:30 ~ 12:00			
	3	12:50 ~ 14:20			
	4	14:30 ~ 16:00		言語と文化演習	
	5	16:10 ~ 17:40			
金	1	8:50 ~ 10:20			
	2	10:30 ~ 12:00	情報活用基礎		
	3	12:50 ~ 14:20	現代文化論演習		
	4	14:30 ~ 16:00	キャリアと現代文化		
	5	16:10 ~ 17:40		地域計量分析	

講習会等開催実績

(2013年1月1日～2013年12月31日)

講習会名	新教育用端末システム利用説明会
開催日時	2013年3月28日(木) 15:00～16:00
開催場所	学術情報基盤センター1階 第1端末室
対象	端末室を使って講義を行う教職員
講習内容	<p>2013年3月から新しくなった教育用端末システムについて、教職員向けの説明会を下記の通り開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年3月からのハードウェア環境について ・2013年3月からのソフトウェア環境について ・授業支援システム(学生用PCに対する画面操作、データ配布など)の利用法について
講師	学術情報基盤センター 小田謙太郎

講習会名	IT技術者支援セミナー
開催日時	<p>コース1: 2013年9月11日(水)～9月13日(金) 13:00～16:00 (計3日間)</p> <p>コース2: 2013年9月18日(水)～9月20日(金) 13:00～16:00 (計3日間)</p>
開催場所	学術情報基盤センター4階 会議室A
対象	教職員
講習内容	<p>学内における情報化支援の一環として「IT技術者支援セミナー」を下記の日程で開催いたします。今回は、Linux サーバの管理を行う方、Web アプリケーションの開発を行う方を対象に、2コースのセミナーを開講します。どちらか片方のコースのみの受講も可能です。</p> <p>【コース1】Linux サーバ管理入門 Linux 概要、シェル操作、vi エディタ、ユーザ管理、パッケージ管理、ネットワークサービス管理、セキュリティ対策、ログ管理、シェルスクリプトなど</p> <p>【コース2】Web-DB アプリケーション開発入門 PHP 概要、基本構文、フォーム処理 (POST/GET)、MySQL 概要、SQL (DDL/DML)、テーブル結合 (JOIN)、PHP、MySQL 連携、CRUD 処理、演習など</p>
講師	学術情報基盤センター 森邦彦、古屋保、下園幸一、小田謙太郎 理工学研究科 湊田孝康

講習会名	IT スキルアップ講座
開催日時	2013年9月19日(木)～9月20日(金) 9:00～12:00、13:00～16:00 2013年9月26日(木)～9月27日(金) 9:00～12:00、13:00～16:00
開催場所	教育センター 仮設端末室
対象	教職員
講習内容	本学教職員の業務における IT 活用能力の向上を目的として、下記の講座を開講します。 ・Excel 2010 データ集計分析編 9月19日(木) 9:00～12:00、13:00～16:00 ・Excel 2010 作業効率アップ編 9月20日(金) 9:00～12:00、13:00～16:00 ・Access 2010 データベースとテーブルの作成編 9月26日(木) 9:00～12:00、13:00～16:00 ・Access 2010 クエリを使ったデータ抽出活用編 9月27日(金) 9:00～12:00、13:00～16:00
講師	株式会社フォーエバー

学術情報基盤センター行事表

学術情報基盤センターが主催、もしくは学術情報基盤センター教職員が出席・参加した主要な行事を紹介します。

(平成25年)

<4月>

- 10日 NTT 定例会
- 10日 富士通定例会
- 23日 第1回教務委員会
- 23日 第1回大学院教務委員会
- 24日 第1回学術情報基盤センター会議

<5月>

- 8日 NTT 定例会
- 8日 富士通定例会
- 21日 学術情報基盤センター運営委員会
- 22日 I S M S 認定書授与式
- 22日 第2回学術情報基盤センター会議
- 24日 第2回大学院教務委員会
- 28日 第2回教務委員会
- 30日 大学ICT推進協議会2013年度通常総会及びCIO部会(学術総合センター)

<6月>

- 5日 NTT 定例会
- 7日 eラーニングシステム専門委員会
- 12日 富士通定例会
- 25日 第3回教務委員会
- 25日 第3回大学院教務委員会
- 26日 第3回学術情報基盤センター会議

<7月>

- 3日 NTT 定例会
- 10日 富士通定例会
- 23日 第4回教務委員会
- 23日 第4回大学院教務委員会
- 24日 第4回学術情報基盤センター会議
- 26日 第30回九州大学情報基盤研究開発センター全国共同利用運営委員会及び第13回西日本地区大学情報関連センター長会議(九州大学)

<8月>

- 7日 NTT 定例会
- 7日 富士通定例会
- 28日 第5回学術情報基盤センター会議
- 29日 第25回情報処理センター等担当者技術研究会(鳥取大学)(~30日)

<9月>

- 4日 NTT 定例会
- 9日 第10回国立大学法人情報系センター協議会総会、センター懇談会、第8回国立大学法人情報系センター研究集会及び第17回学術情報処理研究集会(千葉大学)(~10日)
- 11日 富士通定例会
- 11日 IT技術者支援セミナー(コース1)(~13日)
- 18日 IT技術者支援セミナー(コース2)(~20日)
- 18日 第6回学術情報基盤センター会議
- 19日 ITスキルアップ講習会(~20、26、27日)
- 24日 第5回大学院教務委員会

<10月>

- 2日 NTT 定例会
- 9日 富士通定例会
- 21日 ノード校担当者会議(学術総合センター)
- 22日 第5回教務委員会
- 22日 第6回大学院教務委員会
- 23日 第7回学術情報基盤センター会議

<11月>

- 6日 NTT 定例会
- 13日 富士通定例会
- 20日 情報セキュリティ講習会(水産学部教職員向け)
- 22日 IS研九州ブロック研究会(別府国際コンベンションセンター)(~23日)

- 26日 I S M S 内部監査
- 27日 第8回学術情報基盤センター会議

<12月>

- 4日 NTT 定例会
- 6日 情報セキュリティ講習会（郡元、桜ヶ丘教職員向け）
- 9日 国立大学法人等最高情報セキュリティ責任者会議（文部科学省）
- 10日 第6回教務委員会
- 10日 第7回大学院教務委員会
- 11日 富士通定例会
- 11日 鹿児島県警との意見交換会
- 12日 情報セキュリティ講習会（幹部職員向け）
- 13日 情報セキュリティ講習会（学生向け）
- 13日 第32回九州大学情報基盤研究開発センター全国共同利用運営委員会及び第14回西日本地区大学情報関連センター長会議（九州大学）
- 18日 大学ICT推進協議会2013年度年次大会及びCIO部会及び企画セッション（幕張メッセ国際会議場）（～20日）
- 25日 第9回学術情報基盤センター会議

(平成26年)

<1月>

- 8日 NTT 定例会
- 8日 富士通定例会
- 22日 第10回学術情報基盤センター会議
- 28日 第7回教務委員会
- 28日 第8回大学院教務委員会

<2月>

- 5日 NTT 定例会
- 12日 富士通定例会
- 17日 IT資格取得セミナー～ITパスポート
- 26日 第11回学術情報基盤センター会議

<3月>

- 5日 NTT 定例会
- 7日 学術情報基盤センターサービス（教職員向け）および授業支援システム利用説明会
- 12日 富士通定例会
- 17日 第8回教務委員会
- 18日 I S M S 審査
- 26日 第12回学術情報基盤センター会議

教職員名簿

平成26年3月現在

	氏 名	職 名	内線番号
センター長（兼任）	森 邦彦	教 授	7169 (センター長室：7470)
情報メディア基盤部門	山之上 卓	教 授	7187
	小 田 謙太郎	助 教	8864
学術情報処理研究部門	森 邦彦	教 授	7169
	古 屋 保	准 教 授	7197
情報システム開発部門	升 屋 正 人	教 授	7471
	下 園 幸 一	准 教 授	7477
総務部情報企画課	中 園 康 弘	課 長	7132
	本 田 敏 幸	課長代理	7014
総務部情報企画課情報企画係	西 川 千賀子	係 長	7015
	相 羽 俊 生	係 員	7474
	西 かほり	非常勤職員	7015
総務部情報企画課情報システム管理係	高 橋 至	係 長	7473
学術情報基盤センター	稗 田 美 治	非常勤職員	7474

*事務は総務部情報企画課情報企画係が担当しています。

研究業績一覧 2010年4月～2014年3月分

学術情報処理研究部門

学会発表

- 金田侑士, 森邦彦, 古屋保, 学生定期健康診断用データベースシステム, 平成22年度第63回電気関係学会九州支部連合大会, 2010年9月(福岡)
- 古屋保, 森邦彦, 遺伝的アルゴリズムによるハーフトーン画像の階調復元, 平成22年度第63回電気関係学会九州支部連合大会, 2010年9月(福岡)
- 金田侑士, 古屋保, 森邦彦, 学生定期健康診断用データベース, 平成22年度電気関係学会九州支部連合大会(第63回連合大会), 2010年9月(福岡)
- 金田侑士, 森邦彦, 古屋保, 鹿児島大学教育学部における教員免許のための履修管理システム, 2010九州PCカンファレンスin長崎大学, 2010年11月(長崎)
- 金田侑士, 古屋保, 森邦彦, 鹿児島大学教育学部における教員免許のための履修管理システム－簡易言語によるデータベースからの統計資料生成－, 2010九州PCカンファレンスin長崎大学, 2010年11月(長崎)
- 有村裕貴, 古屋保, 森邦彦, 類似探索による単一画像からの画像高解像化, 平成23年度電気関係学会九州支部連合大会(第64回連合大会), 2011年9月(佐賀)
- 宮崎弘裕, 古屋保, 森邦彦, 繰り返し手法による画像高解像化, 平成23年度電気関係学会九州支部連合大会(第64回連合大会), 2011年9月(佐賀)
- 福盛真也, 古屋保, 森邦彦, サーバサイドスクリプトによる画像処理ライブラリシステム, 平成23年度電気関係学会九州支部連合大会(第64回連合大会), 2011年9月(佐賀)
- 堂満大地, 古屋保, 森邦彦, データベースフリーなSQL-JOIN命令, 平成23年度電気関係学会九州支部連合大会(第64回連合大会), 2011年9月(佐賀)
- 古屋保, 森邦彦, 改良したGAハーフトーン手法による高品質な二値化画像の生成, FIT2012 第11回情報科学技術フォーラム, 2012年9月(東京)
- 宮ヶ迫渉, 古屋保, 森邦彦, サーバサイドスクリプトによる画像処理アプリケーションライブラリ, 2012九州PCカンファレンスin宮崎大学, 2012年11月(宮崎)
- 宮ヶ迫渉, 森邦彦, 古屋保, 画像処理のためのサーバサイドアプリケーションライブラリ, 第31回計測自動制御学会九州支部学術講演会, 2012年12月(熊本)
- 有村裕貴, 森邦彦, 古屋保, 類似パッチ検索による単一画像からの画像高解像化, 第31回計測自動制御学会九州支部学術講演会, 2012年12月(熊本)
- 堂満大地, 森邦彦, 古屋保, データベースフリーなSQL-JOIN命令の最適化, 第31回計測自動制御学会九州支部学術講演会, 2012年12月(熊本)
- 古屋保, 山之上卓, 下園幸一, 小田謙太郎, 相羽敏生, 瀧田孝康, 森邦彦, パブリッククラウドを利用した技術職員向けサーバ構築講習会の実践報告, 大学ICT推進協議会2012年度年次大会, 2012年

12月（兵庫）

- 宮ヶ迫渉, 森邦彦, 古屋保, サーバーサイドスクリプトを用いた画像処理アプリケーションライブラリ, 平成25年度電気関係学会九州支部連合大会(第66回連合大会), 2013年 9月 (熊本)
- 郭崇, 森邦彦, 古屋保, BBSシステムの系統的設計手法, 平成25年度電気関係学会九州支部連合大会(第66回連合大会), 2013年 9月 (熊本)
- 永野克雲, 森邦彦, 古屋保, 遺伝的アルゴリズムによる自然な二値画像の生成, 2013九州PCカンファレンスin鹿兒島大学, 2013年 11月 (鹿兒島)

情報システム開発部門

論文著書

- 升屋正人, 相羽俊生, 下園幸一, トカラ皆既日食7島中継プロジェクト, 大学情報システム環境研究, Vol.13, (2010).
- 升屋正人, 離島におけるブロードバンドの有効的な活用方法報告書 (受託研究報告書), 鹿兒島大学学術情報基盤センター, pp. 1-18 (2010).
- 升屋正人, ウイルス対策ソフトの入手と導入について, 学術情報基盤センター年報, No. 5, pp. 32-39 (2010).
- 升屋正人, 小規模離島におけるブロードバンドの整備と利活用-コミュニティ・ブロードバンドプロジェクト-, 学術情報基盤センター年報, No. 5, pp. 44-62 (2010).
- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, インターフェーストンネリングによるシステムプログラミング学習, 情報処理学会情報教育シンポジウム SSS2010, pp. 159-164, 2010年8月
- 下園幸一, 菅沼明, 授業用教材スライドにおける「話の流れ」の解析と可視化について, 第77回情報処理学会デジタルドキュメント研究会報告Vol. 2010-DD-77, 2010年9月
- 下園幸一, 高橋至, 升屋正人, 仮想化技術を用いたホスティング・ハウジングサービスの集約, 学術情報処理研究No. 14, pp. 77-88, 2010年9月
- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, 新たなシステムプログラミング学習環境の提案, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月
- 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, Twitter投稿文脈による個人情報推定と個人情報漏えいの防止方法の提案, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月
- 杉田裕次郎, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スケーラブルな画面配信システムの性能改善, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月
- 下園幸一, 菅沼明, 授業用教材スライド内の文字の出現頻度と属性に基づく重要語自動抽出法とその評価, 情報処理学会教育学習支援情報システム研究会報告Vol. 2010-CLE-3, 2010年12月
- 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, Twitter投稿文脈による個人情報の推定と個人情報漏洩の防止方法の提案と試作, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月
- 山之上卓, 今村文紀, 小田謙太郎, 下園幸一, ブロードキャストが可能な環境においてノードの平衡2分木状接続を自律的に行う分散アルゴリズムとその試験的実装, 情報処理学会 第12回 インター

ネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月

- 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 松下翔太, 東剛秀, 田中貴章, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, P2Pを利用した画面配信システムの性能改善に関する研究, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月
- 東剛秀, 田中貴章, 松下翔太, 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 山之上卓, 下園幸一, 小田謙太郎, 携帯端末を用いた全方位パノラマ画像作成システムの試作, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月
- 山之上卓, 山本史弥, 小田謙太郎, 下園幸一, PukiwikiでJava プログラムの起動とそのデータ保存を可能とするシステムの試作, 情報処理学会 コンピュータと教育研究会第109回研究発表会 (CE研究会), 2011年3月
- 杉田裕次郎, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, アドホックな環境で利用可能なWebベースの画面共有システム, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, (2011)
- 白澤竜馬, 杉田裕次郎, 亀澤健太, 東剛秀, 田中貴章, 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, 携帯型ネットワークセキュリティ可視化システム, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, (2011)
- 田中貴章, 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 東剛秀, 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スマートフォンの加速度センサを用いた移動距離算出方法の研究, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, (2011)
- 東恭平, 鈴木亮祐, 青木謙二, 下園幸一, 升屋正人, 海上長距離無線LAN 通信システムの構築と評価, 情報処理学会九州支部若手の会セミナー 2011論文集, pp. 23-26 (2011).
- 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, プログラミングの共有@Wiki, 夏のプログラミング・シンポジウム2011「プログラミング言語, 作る人, 使う人」, pp. 101-110 (2011)
- 寺田将春, ブレイジア アン, 山之上卓, 下園幸一, 鹿児島大学におけるmoodle liteの運用方法と問題点, 2012 Mie Moodle Moot , (2012)
- 升屋正人, 青木謙二, 下園幸一, [招待講演] 海上長距離無線LAN通信システムの伝搬特性, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 111, No. 417, pp. 29-36 (2012).
- 升屋正人, 奄美豪雨災害における情報通信体制の検証, 鹿児島大学奄美豪雨災害調査委員会「2010年奄美豪雨災害の総合的調査研究」報告書, pp. 51-56 (2012).
- 升屋正人, 青木謙二, 下園幸一, 国内最長の海上長距離無線LAN 通信システムにおける電波伝搬特性, 大学情報システム環境研究, Vol. 15, pp. 62-71 (2012).
- 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, 過去の状況の変化をさかのぼって表示できるLAN内通信可視化システム, 情報処理学会研究会報告, Vol. 2012-IOT-16, No. 52, (2012).
- 山之上卓, 白澤竜馬, 小田謙太郎, 下園幸一, Wiki と携帯型遠隔操作端末を使った情報セキュリティ監視システム, 情報処理学会研究会報告, Vol. 2012-IOT-16, No. 35, (2012).
- 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, Wiki と携帯型遠隔操作端末を使った情報セキュリティ対策システム, 情報処理学会研究会報告, Vol. 2012-IOT-17, No. 2, (2012).
- 升屋正人, 青木謙二, 下園幸一, 国内最長の海上長距離無線LAN通信システムにおける電波伝搬特性, 大学情報システム環境研究, Vol. 15, pp. 62-71 (2012).

- 松下翔太、小田謙太郎、下園幸一、山之上卓, 視聴者中心のプレゼンテーションを可能にするスライド共有システムに関する研究, 情報処理学会情報教育シンポジウム Summer Symposium in Shizuoka 2012 論文集, (2012).
- 東剛秀, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スマートフォンを用いた失敗の少ない高解像度パノラマ画像の撮影・共有システム, 情報処理学会 第5回CDS・第2回DCC合同研究発表会, (2012).
- 和田智仁, 下園幸一, 升屋正人, 自転車競技のインターネットライブ中継, 大学情報システム環境研究, Vol. 16, pp. 51-61 (2013).
- 升屋正人, 特別招待講演 小規模離島におけるブロードバンドの整備と利活用, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 113, No. 114, pp. 69-74 (2013).
- 升屋正人, 室屋孝英, 下園幸一, コネクション分割によるTCPスループット向上システムの仮想化環境における評価, 大学情報システム環境研究, Vol. 17, pp. 58-66 (2014).
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, A Malicious Bot Capturing System using a Beneficial Bot and Wiki, The Journal of Information Processing (JIP), Vol. 21, No. 2, pp. 237-245 (2013).
- 山之上卓, 杉田裕次郎, 小荒田裕理, 小田謙太郎, 下園幸一, デスクトップ画像共有システムのための、トーナメントアルゴリズムを使った負荷分散機構, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2013) シンポジウム講演論文集, pp. 429-434 (2013).
- 山之上卓, 古屋保, 下園幸一, 小田謙太郎, 升屋正人, 森邦彦, 情報倫理ビデオと情報セキュリティ監視サービスとISMS を組み合わせた大学の情報セキュリティ強化, 学術情報処理研究, Vol. 17, pp. 99-106 (2013).
- 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, 小荒田裕理, 中大規模会議用携帯クラウドコンピューティング環境の概念, 第12回情報科学技術フォーラム講演論文集, Vol. L-026, pp. 275-280 (2013).
- 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, Wiki で設定やプログラムを記述可能なセンサネットワークシステム, 情報処理学会研究報告, Vol. 2013-IOT-23, No. 2, (2013).

国際学会

- Takashi Yamanoue, Koichi Shimozono, Kentaro Oda, Comparing a Video Projector and an Inter-PC Screen Broadcasting System in a Computer Laboratory, Proceedings of the 38th annual ACM SIGUCCS conference on User services, pp. 229-233, 2010年10月
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, PukiWiki-Java Connector, a Simple API for Saving Data of Java Programs on a Wiki, 7th International Symposium on Wikis and Open Collaboration Wikisym 2011, 2011年 10月 (アメリカ合衆国)
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, An Autonomic Distributed Algorithm for Forming Balanced Binary Trees of Nodes in a Structured P2P System in a Multicast-enabled Environment, IJCSNS, International Journal of Computer Science and Network Security, Vol. 11, No. 10, (2011)
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, A Simple Application Program Interface for

Saving Java Program Data on a Wiki, *Advances in Software Engineering*, Hindawi Publishing Corporation, 2012 (in Press)., (2012)

- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, A Casual Network Security Monitoring System using a Portable Sensor Device and Wiki Software, 12th IEEE/IPSJ International Symposium on Applications and the Internet, pp. 387-392 (2012).
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, A M2M system using Arduino, Android and Wiki Software, the 3rd IIAI International Conference on e-Services and Knowledge Managerment (IIAI ESKM 2012), pp. 123-128 (2012).

学会発表

- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, インターフェーストンネリングによるシステムプログラミング学習, 情報処理学会情報教育シンポジウム SSS2010, 2010年8月 (群馬)
- 下園幸一, 菅沼明, 授業用教材スライドにおける「話の流れ」の解析と可視化について, 第77回情報処理学会デジタルドキュメント研究会, 2010年9月 (東京)
- 下園幸一, 高橋至, 升屋正人, 仮想化技術を用いたホスティング・ハウジングサービスの集約, 学術情報処理研究集会, 2010年9月 (和歌山)
- Takashi Yamanoue, Koichi Shimozono, Kentaro Oda, Comparing a Video Projector and an Inter-PC Screen Broadcasting System in a Computer Laboratory, Proceedings of the 38th annual ACM SIGUCCS conference on User services, 2010年10月 (アメリカ合衆国)
- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, 新たなシステムプログラミング学習環境の提案, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月 (福岡)
- 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, Twitter投稿文脈による個人情報推定と個人情報漏えいの防止方法の提案, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月 (福岡)
- 杉田裕次郎, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スケーラブルな画面配信システムの性能改善, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月 (福岡)
- 下園幸一, 菅沼明, 授業用教材スライド内の文字の出現頻度と属性に基づく重要語自動抽出法とその評価, 情報処理学会教育学習支援情報システム研究会, 2010年12月 (京都)
- Masato Masuya, Invite Speech : Internet Streaming of Total Solar Eclipse in 2009 at Tokara Iskands, The JSPS/NRF Core University Program Seminar on Next Generation Internet, the 16th Seminar, 2011年 2月 (鹿児島市).
- 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, Twitter投稿文脈による個人情報の推定と個人情報漏洩の防止方法の提案と試作, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月 (高知)
- 山之上卓, 今村文紀, 小田謙太郎, 下園幸一, ブロードキャストが可能な環境においてノードの平衡2分木状接続を自律的に行う分散アルゴリズムとその試験的実装, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月 (高知)
- 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 松下翔太, 東剛秀, 田中貴章, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, P2P

- を利用した画面配信システムの性能改善に関する研究, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会(IOT研究会), 2011年3月(高知)
- 東剛秀, 田中貴章, 松下翔太, 杉田裕次郎, 白沢竜馬, 亀澤健太, 山之上卓, 下園幸一, 小田謙太郎, 携帯端末を用いた全方位パノラマ画像作成システムの試作, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会(IOT研究会), 2011年3月(高知)
 - 山之上卓, 山本史弥, 小田謙太郎, 下園幸一, PukiwikiでJavaプログラムの起動とそのデータ保存を可能とするシステムの試作, 情報処理学会 コンピュータと教育研究会第109回研究発表会(CE研究会), 2011年3月
 - 杉田裕次郎, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, アドホックな環境で利用可能なWebベースの画面共有システム, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, 2011年 9月
 - 白澤竜馬, 杉田裕次郎, 亀澤健太, 東剛秀, 田中貴章, 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, 携帯型ネットワークセキュリティ可視化システム, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, 2011年 9月
 - 田中貴章, 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 東剛秀, 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スマートフォンの加速度センサを用いた移動距離算出方法の研究, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, 2011年 9月
 - 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, プログラミングの共有@Wiki, 情報処理学会 夏のプログラミング・シンポジウム2011, 2011年 9月
 - 升屋正人, [特別講演] トカラ皆既日食7島中継プロジェクト, 情報処理学会九州支部若手の会セミナー, 2011年 9月(鹿兒島市).
 - Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimosono, PukiWiki-Java Connector, a Simple API for Saving Data of Java Programs on a Wiki, 7th International Symposium on Wikis and Open Collaboration Wikisym 2011, 2011年 10月(アメリカ合衆国)
 - Masato Masuya, Invite Speech : Internet Streaming of Total Solar Eclipse in 2009 at Tokara Iskands, The JSPS/NRF Core University Program Seminar on Next Generation Internet, the 16th Seminar, 2011年 2月(鹿兒島市)
 - 升屋正人, 青木健二, 下園幸一, [招待講演] 海上長距離無線LAN 通信システムの伝搬特性, 電子情報通信学会SR 研究会, 2012年 1月(鹿兒島市).
 - 升屋正人, 特別招待講演 小規模離島におけるブロードバンドの整備と利活用, 電子情報通信学会通信方式研究会, 2013年 7月(沖縄).
 - 升屋正人, 室屋孝英, 下園幸一, コネクション分割によるTCPスループット向上システムの仮想化環境における評価, 国公立大学情報システム研究会総会, 2014年 3月(大阪).
 - Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimosono, a Loosely Coupled M2M System Using Arduino, Android and Wiki Software, The 38th IEEE Conference on Local Computer Networks (LCN), 2013年 10月(Austria).

表彰受賞

- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, 情報処理学会・コンピュータと教育研究会情報教育シ

ンポジウムSummer Symposium in Shibukawa 2010 優秀発表賞, 情報処理学会・コンピュータと教育研究会, 2010年8月20日

情報メディア基盤部門

論文著書

- 中村純, 岡部成玄, 布施泉, 村田育也, 山田恒夫, 辰己丈夫, 上原哲太郎, 中西通雄, 深田昭三, 多川孝央, 山之上卓, "情報倫理教育", メディア教育研究, Vol. 6, No. 2, pp. S33-S43 (2010)
- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, インターフェーストネリングによるシステムプログラミング学習, 情報処理学会情報教育シンポジウム SSS2010, pp. 159-164, 2010年8月
- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, 新たなシステムプログラミング学習環境の提案, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月
- 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, Twitter投稿文脈による個人情報推定の防止方法の提案, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月
- 杉田裕次郎, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スケーラブルな画面配信システムの性能改善, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月
- 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, Twitter投稿文脈による個人情報推定の防止方法の提案と試作, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月
- 山之上卓, 今村文紀, 小田謙太郎, 下園幸一, ブロードキャストが可能な環境においてノードの平衡2分木状接続を自律的に行う分散アルゴリズムとその試験的実装, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月
- 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 松下翔太, 東剛秀, 田中貴章, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, P2Pを利用した画面配信システムの性能改善に関する研究, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月
- 東剛秀, 田中貴章, 松下翔太, 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 山之上卓, 下園幸一, 小田謙太郎, 携帯端末を用いた全方位パノラマ画像作成システムの試作, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月
- 山之上卓, 山本史弥, 小田謙太郎, 下園幸一, PukiwikiでJavaプログラムの起動とそのデータ保存を可能とするシステムの試作, 情報処理学会 コンピュータと教育研究会第109回研究発表会 (CE研究会), 2011年3月
- 山之上卓, 大橋勝文, 大野祐史, 鹿嶋雅之, 池田亮, FPGA評価ボードを使ったインターフェースの実験演習, 情報処理学会情報教育シンポジウム (SSS2011) 論文集, Vol. Vol. 2011, No. no. 4, (2011)
- 杉田裕次郎, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, アドホックな環境で利用可能なWebベースの画面共有システム, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, (2011)
- 白澤竜馬, 杉田裕次郎, 亀澤健太, 東剛秀, 田中貴章, 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, 携帯型ネットワークセキュリティ可視化システム, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, (2011)
- 田中貴章, 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 東剛秀, 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, ス

- スマートフォンの加速度センサを用いた移動距離算出方法の研究, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, (2011)
- 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, プログラミングの共有@Wiki, 夏のプログラミング・シンポジウム 2011「プログラミング言語, 作る人, 使う人」, pp. 101-110 (2011)
 - Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, An Autonomic Distributed Algorithm for Forming Balanced Binary Trees of Nodes in a Structured P2P System in a Multicast-enabled Environment, IJCSNS, International Journal of Computer Science and Network Security, Vol. 11, No. 10, (2011).
 - 山之上卓, ソーシャルXとP2Pと情報倫理 (招待講演), 情報処理学会研究会報告, MBL [モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会研究報告], Vol. 2011-MBL-60(9), pp. 1-10, (2011)
 - Kentaro ODA, Toyohiro HAYASHI, Shinobu IZUMI, Tomohito WADA, Shuichi ENOKIDA, CLOUD DRIVE : A Computing Architecture For A Scalable Driving Safety Management System, Modern Transport Telematics : 11th International Conference on Transport Systems Telematics, Tst 2011, Katowice-ustron, Poland, October 19-22, 2011, Selected Papers (Communications in Computer and Information Science), Vol. 239, pp. 78-85 (2011)
 - Toyohiro HAYASHI, Kentaro ODA, Tomohito WADA, Shuichi ENOKIDA, Safety driving assessment based on video image sequence analysis, Modern Transport Telematics : 11th International Conference on Transport Systems Telematics, Tst 2011, Katowice-ustron, Poland, October 19-22, 2011, Selected Papers (Communications in Computer and Information Science), Vol. 239, pp. 28-38 (2011)
 - Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, A Simple Application Program Interface for Saving Java Program Data on a Wiki, Advances in Software Engineering, Hindawi Publishing Corporation, 2012 (in Press)., (2012)
 - 寺田将春, ブレイジア アン, 山之上卓, 下園幸一, 鹿兒島大学におけるmoodle liteの運用方法と問題点, 2012 Mie Moodle Moot, (2012)
 - 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, 過去の状況の変化をさかのぼって表示できるLAN内通信可視化システム, 情報処理学会研究会報告, Vol. Vol. 2012-IOT-16, No. 52, (2012).
 - 山之上卓, 白澤竜馬, 小田謙太郎, 下園幸一, Wiki と携帯型遠隔操作端末を使った情報セキュリティ監視システム, 情報処理学会研究会報告, Vol. Vol. 2012-IOT-16, No. 35, (2012).
 - 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, Wiki と携帯型遠隔操作端末を使った情報セキュリティ対策システム, 情報処理学会研究会報告, Vol. Vol. 2012-IOT-17, No. 2, (2012).
 - 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, Pukiwiki-Java Connector を用いた3つの応用事例, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2012)シンポジウム論文集, Vol. 2012, pp. 2323-2343 (2012).
 - 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, 視聴者中心のプレゼンテーションを可能にするスライド共有システムに関する研究, 情報処理学会情報教育シンポジウム Summer Symposium in Shizuoka 2012 論文集, Vol. 2012, No. 4, pp. 201-205 (2012).
 - 東剛秀, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スマートフォンを用いた失敗の少ない高解像度パノラマ

- 画像の撮影・共有システム, 情報処理学会 第5回 CDS・第2回DCC合同研究発表会, (2012).
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, A Malicious Bot Capturing System using a Beneficial Bot and Wiki, The Journal of Information Processing (JIP), Vol. 21, No. 2, pp. 237-245 (2013).
 - 深田昭三, 中村純, 岡部成玄, 布施泉, 上原哲太郎, 村田育也, 山田恒夫, 辰己丈夫, 中西通雄, 多川孝央, 山之上卓, 大学生の情報倫理にかかわる判断と行動, 日本教育工学会論文誌, Vol. 37, No. 2, (2013).
 - 山之上卓, 杉田裕次郎, 小荒田裕理, 小田謙太郎, 下園幸一, デスクトップ画像共有システムのための、トーナメントアルゴリズムを使った負荷分散機構, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2013) シンポジウム講演論文集, pp. 429-434 (2013).
 - 山之上卓, 樋高想士, 小林幸司, 小荒田裕理, 片桐太樹, 小田謙太郎, 下園幸一, ポータブルクラウドの試作, 情報処理学会研究報告, Vol. 2013-IOT-22, No. 12, (2013).
 - Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, An Inter-Wiki Page Data Processor for a M2M System, 4th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2013), Matsue, Japan., (2013).
 - 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, 小荒田裕理, 中大規模会議用携帯クラウドコンピューティング環境の概念, 第12回情報科学技術フォーラム講演論文集, L-026, pp. 275-280 (2013).
 - 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, Wiki で設定やプログラムを記述可能なセンサネットワークシステム, 情報処理学会研究報告, Vol. 2013-IOT-23, No. 2, (2013).
 - 山之上卓, 古屋保, 下園幸一, 小田謙太郎, 升屋正人, 森邦彦, 情報倫理ビデオと情報セキュリティ監視サービスとISMS を組み合わせた大学の情報セキュリティ強化, 学術情報処理研究, No. 17, (2013).
 - Takashi Yamanoue, Tamotsu Furuya, Koichi Shimozono, Masato Masuya, Kentaro Oda, Kunihiko Mori, Enhancing information security of a university using computer ethics video clips, managed security service and an information security management system, Proceedings of the 41th annual ACM SIGUCCS conference on User services, Chicago, Illinois, US, pp. 101-104 (2013).
 - Naoto Matsumoto, Shunsuke Fujieda, Kensuke Miyashita, Takashi Yamanoue, Examples of Disaster Recovery Activities Using Information and Communication Technology in Japan, Workshop on Resilient Internet-Based Systems (REIS) 2013, The 9th International Conference on SIGNAL IMAGE TECHNOLOGY AND INTERNET BASED SYSTEM, Kyoto Nov. 2013., (2013).
 - 樋高想士, 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, 携帯端末利用者のための会議・授業の支援システム—ポータブルクラウド, 情報処理学会研究報告インターネットと運用技術 (IOT), Vol. 2014-IOT-24, No. 1-5, (2014).
 - 片桐太樹, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, 樋高想士, クラウドと強化現実を組み合わせた書写練習システム, 研究報告インターネットと運用技術 (IOT), Vol. 2014-IOT-24, (2014).
 - Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, Experimental Implementation of a M2M System Controlled by a Wiki Network, Applied Computing and Information Technology, Studies

in Computational Intelligence, Springer, Vol. 553, pp. 121-136 (2014).

国際会議

- Takashi Yamanoue, A Draw Plug-in for a Wiki Software, saint, 2010 10th IEEE/IPSJ International Symposium on Applications and the Internet, Seoul, Korea, July 19-23, pp. 229-232, 2010年7月
- Takashi Yamanoue, Koichi Shimozono, Kentaro Oda, Comparing a Video Projector and an Inter-PC Screen Broadcasting System in a Computer Laboratory, Proceedings of the 38th annual ACM SIGUCCS conference on User services, pp. 229-233, 2010年10月
- Keisuke Shingaki, Shinobu Izumi, Kentaro Oda, A Method of Resolving Objects' Location in an Autonomous Distributed Computing Environment, Fourth International Conference on Internet Technologies & Applications (ITA 11), pp. 152-159 (2011).
- Kentaro ODA, Toyohiro HAYASHI, Shinobu IZUMI, Tomohito WADA, Shuichi ENOKIDA, CLOUD DRIVE : A Computing Architecture For A Scalable Driving Safety Management System, International Conference on Transportation and Telematics 2011, (2011)
- Toyohiro HAYASHI, Kentaro ODA, Tomohito WADA, Shuichi ENOKIDA, Safety driving assessment based on video image sequence analysis, International Conference on Transportation and Telematics 2011, (2011)
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, PukiWiki-Java Connector, a Simple API for Saving Data of Java Programs on a Wiki, ACM WikiSym ' 11 Proceedings of the 2011 international symposium on Wikis, 2011, (2011)
- Takashi Yamanoue, Robert J. Fouser, Tomohito Wada, Masayasu Hidaka, Yusei Suzuki, Masaharu Terada, Akira Takenoshita, Yutoku Beppu, Yoko Nedachi, Koji Yukawa, Holmes Rodriguez, Katsuyuki Suenaga, Yuichi Yamanaka, Toshihiko Okamura, Anne Elizabeth Brasier, Hiroyuki Seto, Kazuhide Dogome, Takeshi Yamada, Noritaka Oto, Masakazu Ito, Munetomo Nedachi, Information and Communication Technology Infrastructure and Management for Collaboration with Regional Universities and Colleges , Proceedings of the 39th annual ACM SIGUCCS conference on User services, San Diego, CA, USA, 12-17 Nov. 2011. , (2011)
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda and Koichi Shimozono, A Casual Network Security Monitoring System using a Portable Sensor Device and Wiki Software, 12th IEEE/IPSJ International Symposium on Applications and the Internet, pp. 387-392 (2012).
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, A M2M system using Arduino, Android and Wiki Software, the 3rd IIAI International Conference on e-Services and Knowledge Managerment (IIAI ESKM 2012) , pp. 123-128 (2012).
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, Capturing Malicious Bots using a Beneficial Bot and Wiki, Proceedings of the 40th annual ACM SIGUCCS conference on User services , pp. 91-96 (2012).

- Takashi Yamanoue, Naomi Fujimura, Hideo Masuda, Motonori Nakamura , An Introduction to the Special Interest Group on Internet and Operation Technology (SIG-IOT) of Information Processing Society of Japan, Proceedings of the 40th annual ACM SIGUCCS conference on User services, Memphis, Tennessee, US. 15-19 Oct. , pp. 149-152 (2012).

学会発表

- Takashi Yamanoue, A Draw Plug-in for a Wiki Software, saint, 2010 10th IEEE/IPSJ International Symposium on Applications and the Internet, Seoul, 2010年7月 (韓国)
- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, インターフェーストネリングによるシステムプログラミング学習, 情報処理学会情報教育シンポジウム SSS2010, 2010年8月 (群馬)
- Takashi Yamanoue, Koichi Shimozono, Kentaro Oda, Comparing a Video Projector and an Inter-PC Screen Broadcasting System in a Computer Laboratory, Proceedings of the 38th annual ACM SIGUCCS conference on User services, pp. 229-233, 2010年10月 (アメリカ合衆国)
- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, 新たなシステムプログラミング学習環境の提案, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月 (福岡)
- 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, Twitter投稿文脈による個人情報推定と個人情報漏えいの防止方法の提案, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月 (福岡)
- 杉田裕次郎, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スケーラブルな画面配信システムの性能改善, 電気関係学会九州支部第63回連合大会, 2010年10月 (福岡)
- 多川孝央, 山之上卓, 布施泉, 岡部成玄, 中村純, 辰己丈夫, 中西通雄, 深田昭三, 村田育也, 上原哲太郎, 山田恒夫, "情報倫理教育に関する日本国外の状況調査", 2010 Korea-Japan International Seminar on Information Ethics, 高麗大学, ソウル, 2010年11月 (韓国)
- 深田昭三, 中村純, 岡部成玄, 布施泉, 上原哲太郎, 村田育也, 山田恒夫, 辰己丈夫, 中西通雄, 多川孝央, 山之上卓, "情報倫理への情報倫理教育の影響: 大学生に対する質問紙調査による検討", 2010 Korea-Japan International Seminar on Information Ethics, 高麗大学, ソウル, 2010年11月 (韓国)
- 山之上卓, 辰己丈夫, 布施泉, 岡部成玄, 多川孝央, 中西通雄, 中村純, 深田昭三, 村田育也, 上原哲太郎, 山田恒夫, "情報倫理教育ビデオの大学情報セキュリティ強化への応用", 2010 Korea-Japan International Seminar on Information Ethics, 高麗大学, ソウル, 2010年11月 (韓国)
- 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, Twitter投稿文脈による個人情報の推定と個人情報漏洩の防止方法の提案と試作, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月 (高知)
- 山之上卓, 今村文紀, 小田謙太郎, 下園幸一, ブロードキャストが可能な環境においてノードの平衡2分木状接続を自律的に行う分散アルゴリズムとその試験的実装, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月 (高知)
- 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 松下翔太, 東剛秀, 田中貴章, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, P2Pを利用した画面配信システムの性能改善に関する研究, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月 (高知)

- 東剛秀, 田中貴章, 松下翔太, 杉田裕次郎, 白沢竜馬, 亀澤健太, 山之上卓, 下園幸一, 小田謙太郎, 携帯端末を用いた全方位パノラマ画像作成システムの試作, 情報処理学会 第12回 インターネットと運用技術研究発表会 (IOT研究会), 2011年3月 (高知)
- 山之上卓, 山本史弥, 小田謙太郎, 下園幸一, PukiwikiでJavaプログラムの起動とそのデータ保存を可能とするシステムの試作, 情報処理学会 コンピュータと教育研究会第109回研究発表会 (CE研究会), 2011年3月
- Keisuke Shingaki, Shinobu Izumi, Kentaro Oda, A Method of Resolving Objects' Location in an Autonomous Distributed Computing Environment, Fourth International Conference on Internet Technologies & Applications (ITA 11), 2011年 9月 (イギリス).
- 杉田裕次郎, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, アドホックな環境で利用可能なWebベースの画面共有システム, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, 2011年 9月 (佐賀)
- 白澤竜馬, 杉田裕次郎, 亀澤健太, 東剛秀, 田中貴章, 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, 携帯型ネットワークセキュリティ可視化システム, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, 2011年 9月 (佐賀)
- 田中貴章, 杉田裕次郎, 白澤竜馬, 亀澤健太, 東剛秀, 松下翔太, 小田謙太郎, 下園幸一, 山之上卓, スマートフォンの加速度センサを用いた移動距離算出方法の研究, 電気関係学会九州支部第64回連合大会, 2011年 9月 (佐賀)
- 山之上卓, 小田謙太郎, 下園幸一, プログラミングの共有@Wiki, 情報処理学会 夏のプログラミング・シンポジウム2011, 2011年 9月
- Kentaro ODA, Toyohiro HAYASHI, Shinobu IZUMI, Tomohito WADA, Shuichi ENOKIDA, CLOUD DRIVE : A Computing Architecture For A Scalable Driving Safety Management System, International Conference on Transportation and Telematics 2011, 2011年 10月 (ポーランド)
- Toyohiro HAYASHI, Kentaro ODA, Tomohito WADA, Shuichi ENOKIDA, Safety driving assessment based on video image sequence analysis, International Conference on Transportation and Telematics 2011, 2011年 10月 (ポーランド)
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, PukiWiki-Java Connector, a Simple API for Saving Data of Java Programs on a Wiki, 7th International Symposium on Wikis and Open Collaboration Wikisym 2011, 2011年 10月 (アメリカ合衆国)
- Kentaro Oda, Keynote : RoboCup, Robot Soccer World Cup Experience and Current Related Research Topics in Japan, The 4th Kagoshima International Science and Technology Forum, 2012年 2月 (アメリカ合衆国)
- Takashi Yamanoue, Kentaro Oda, Koichi Shimozono, Demonstration of a Loosely Coupled M2M System Using Arduino, Android and Wiki Software, LCN 2013, The 38th IEEE Conference on Local Computer Networks (LCN), 2013年 10月 (Sydney, Australia).

表彰受賞

- 小田謙太郎, 和泉信生, 下園幸一, 山之上卓, 情報処理学会・コンピュータと教育研究会情報教育シンポジウムSummer Symposium in Shibukawa 2010 優秀発表賞, 情報処理学会・コンピュータと教育研究会, 2010年8月20日
- 荒川豊, Shinichi Motohashi, 松岡謙治, 小田謙太郎, 本村健, Startup Weekend Matsuri Taikai Japan Winner, Startup Weekend Japan, 2011年9月12日

科学研究費補助金

- 中村純, 山田恒夫, 岡部成玄, 深田昭三, 山之上卓, 村田育也, 科学研究費補助金, 基盤研究(B), 諸外国における情報倫理教育の調査研究——国際化教材開発のために, 2007年度～2009年度, 11700千円
- 日本学術振興会科学研究費・基盤B, 情報メディアの新展開をふまえた情報倫理教育のコンテンツと学習に関する総合的研究(岡部成人), 2012年度～2014年度, 15080千円

設計創作

- 山之上卓, 特許第5186624号 音声・画像通信システム (2013).
- Takashi Yamanoue, AUDIO/VIDEO COMMUNICATION SYSTEM, Unites States Patent, Patent No. : US 8,477,659 B2Date of Patent : Jul. 2, 2013 (2013).

その他の業績一覧

2010年4月～2014年3月分

受託研究費、委任経理金等

- 升屋正人, 一般資金受け入れ, 奨学寄付金, 500千円, 2011年, 国内
- 小田謙太郎, 一般資金受け入れ, 奨学寄付金, 500千円, 2012年, 国内
- 升屋正人, 一般資金受け入れ, 奨学寄付金, 500千円, 2012年, 国内
- 森邦彦, 小田謙太郎, 古屋保, 一般資金受け入れ, 研究開発委託費, 平成24年度戦略的基盤技術高度化支援事業, 高精度形状追従技術を用いた多品種対応型切削工具検査装置の開発, 2,569千円, 2012年-2013年, 国内
- 森邦彦, 一般資金受け入れ, 奨学寄付金, 200千円, 2013年, 国内
- 升屋正人, 一般資金受け入れ, 奨学寄付金, 500千円, 2013年, 国内
- 升屋正人, 下園幸一, 一般資金受け入れ, 受託事業費, 戦略的情報通信研究開発推進事業, 5951千円, 2013年, 国内

学外講師等

- 古屋保, 学外講習会等講師, 平成22年度KISA講演会「Ruby講演」, 「Rubyの概要, 多言語との違い, 効率性」について, 社団法人鹿児島県情報サービス産業協会, 2011年3月14日, ソフトプラザかごしま

学外委員会

- 森邦彦, 学外委員会, ソフトウェア技術者等養成講座カリキュラム編成委員会, 委員, 財団法人かごしま産業支援センター, 2010年11月
- 森邦彦, 学外委員会, ソフトウェア技術者等養成講座カリキュラム編成委員会, 委員, 財団法人かごしま産業支援センター, 2011年11月
- 森邦彦, 学外委員会, 平成21年度鹿児島市情報関連産業等育成支援検討委員会, 委員, 鹿児島市, 2009年4月1日～2010年3月31日
- 森邦彦, 学外委員会, 平成21年度鹿児島市情報関連産業等育成支援検討委員会, 委員, 鹿児島市, 2010年4月1日～2011年3月31日
- 森邦彦, 学外委員会, 平成21年度鹿児島市情報関連産業等育成支援検討委員会, 委員, 鹿児島市, 2011年4月1日～2012年3月31日
- 森邦彦, 学外委員会, 平成21年度鹿児島市情報関連産業等育成支援検討委員会, 委員, 鹿児島市, 2012年4月1日～2013年3月31日
- 森邦彦, 学外委員会, 平成21年度鹿児島市情報関連産業等育成支援検討委員会, 委員, 鹿児島市, 2013年4月1日～2014年3月31日
- 山之上卓, 学外委員会, かごしまITフェスタ実行委員会, 運営委員, 鹿児島市・鹿児島大学・他, 2008年7月1日～2011年3月31日

学外会議企画運営

- 山之上卓, 情報処理学会初等中等教育委員会委員 2006年より
- 山之上卓, 学外会議企画運営, JaSST'12 Kyushu ソフトウェアテストシンポジウム 2012 九州, 実行委員, NPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会, 鹿児島県, 2012年11月
- 下園幸一, 学外会議企画運営, JaSST'12 Kyushu ソフトウェアテストシンポジウム 2012 九州, 実行委員, NPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会, 鹿児島県, 2012年11月

編集後記

本号では、新しく稼働始めたクラウドサービス（プライベートクラウドおよびパブリッククラウド）の解説と、情報セキュリティマネジメントシステム ISMS を中心に構成しました。学術情報基盤センターは、より安全により使いやすい情報システムインフラを提供すべく邁進していますので、皆さんご期待ください。

小田謙太郎

鹿児島大学学術情報基盤センター「年報」No.9

2014年6月発行

編集／発行 鹿児島大学学術情報基盤センター

〒890-0065鹿児島市郡元1丁目21番35号

099-(285)-7474 (ダイヤルイン)

<http://www.cc.kagoshima-u.ac.jp>